

2020年度 福祉保育学科

授 業 概 要

学校法人 昌賢学園
群馬社会福祉専門学校

福祉保育学科1年 開講科目

区分		科目	単位	種類
基礎科目	外国語以外	哲学	2	講義
		キャリアデザイン	1	演習
	体育	体育実技	1	実技
保育の本質・目的に関する科目		保育原理	2	講義
		教育原理	2	講義
		子ども家庭福祉	2	講義
		社会的養護 I	2	講義
		保育者論	2	講義
保育の対象の理解に関する科目		保育の心理学	2	講義
		子ども家庭支援の心理学	2	講義
		子どもの保健	2	講義
		障害者福祉論 I	2	講義
		保育内容総論	1	演習
		健康	1	演習
		人間関係	1	演習
		環境	1	演習
		言葉	1	演習
		表現	1	演習
		音楽 I	4	演習
		図画工作 I	1	演習
		乳児保育 I	2	講義
		障害児保育	2	演習
		保育技術 I	2	演習
		保育実習	保育実習 I	4
保育実習指導 I	2		演習	

福祉保育学科2年 開講科目

区分		科目	単位	種類
基礎科目	外国語以外	日本国憲法	2	講義
		情報リテラシー	2	演習
	外国語	英語リテラシー	2	演習
保育の本質・目的に関する科目		教育原理	2	講義
		子ども家庭福祉	2	講義
		社会福祉	2	講義
		子ども家庭支援論	2	講義
		児童福祉特殊*	2	講義
保育の対象の理解に関する科目		子ども家庭支援の心理学	2	講義
		子どもの理解と援助	1	演習
		子どもの食と栄養	2	演習
		障害者福祉論Ⅱ	2	講義
保育の内容・方法の理解に関する科目		音楽Ⅱ	2	演習
		図画工作Ⅱ*	1	演習
		リトミック	1	演習
		幼児体育	1	演習
		乳児保育Ⅱ*	1	演習
		子どもの健康と安全	1	演習
		社会的養護Ⅱ	1	演習
		子育て支援	1	演習
		児童文化*	1	演習
		保育技術Ⅱ	2	演習
保育実習		保育実習Ⅱ	2	実習
		保育実習Ⅲ	2	実習
		保育実習指導Ⅱ	2	演習
		保育実習指導Ⅲ	2	演習
総合演習		保育実践演習	2	演習
その他		障害者スポーツ	1	演習
		障害者支援	1	演習

* 選択科目 履修希望者が規定に満たない場合は開講なし。

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 哲 学		授業の種類 講 義		授業担当者 鈴木 利定
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)				
<p>[授業の目的・到達目標]</p> <p>「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>孔子は人間いかに生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代におけるあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を徳ことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道德の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する経口すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について 2. 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 3. 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について 4. 大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章)明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章) 5. 至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章)心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章) 6. 家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学その伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序) 7. 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章) 8. 顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章) 9. 国に道があると無きとに關せず節操を持つべきを子略に示す。(右第十、十一章) 10. 孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章) 11. よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章) 12. 孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 13. 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子・荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 14. 老荘思想においては人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 15. 老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>予習・復習を行う。出席評価を重視する。</p>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 「咸有一徳」(中央法規)		試験(90%)・ 授業取り組み状況(10%)を鑑み、評価を与える。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 日本国憲法		授業の種類 講 義		授業担当者 森田 隆夫
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・前期	必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本国憲法は、日本の最高法規である。それは、この憲法が人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、児童福祉法、介護保険法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎としている。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としてはもとより、社会福祉の専門家としての基礎を作る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>まずは、基本的な条文に当たりその理解をせよ。次に、判例をできる限り示し、憲法につき具体的に考える機会を持つ。適宜、関連する法律の紹介も行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①六法で条文を調べることができる。 ②憲法につき重要な概念、制度等を説明することができる。 ③憲法解釈という思考方法をとることができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション、人権①(人権の概念、歴史について説明する。)[講義] 2. 人権②(基本原理、私人間効力について説明する。)[講義] 3. 人権③(包括的基本権、法の下での平等について説明する。)[講義] 4. 人権④(思想良心の自由、信教の自由等について説明する。)[講義] 5. 人権⑤(表現の自由等について説明する。)[講義] 6. 人権⑥(経済的自由について説明する。)[講義] 7. 人権⑦(人身の自由について説明する。)[講義] 8. 人権⑧(生存権、教育を受ける権利について説明する。)[講義] 9. 人権⑨(労働権、参政権、国務請求権、国民の義務について説明する。)[講義] 10. 統治①(統治機構について説明する。)[講義] 11. 統治②(国会について説明する。)[講義] 12. 統治③(内閣について説明する。)[講義] 13. 統治④(裁判所について説明する。)[講義] 14. 統治⑤(財政、地方自治について説明する。)[講義] 15. まとめと解説[講義] 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>教科書で予習・復習すること、憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>【テキスト】 ・森長秀 編著「法学入門」光生館</p> <p>【参考文献】 ・小六法(例:「ポケット六法」有斐閣)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>小テスト(40%)、定期試験(60%)を総合して評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) キャリアデザイン(2020)		授業の種類 演習		授業担当者 鈴木 国泰	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 福祉保育学科1年前期	必修・選択 必修		
<p>[実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)]</p> <p>現役学生の就職支援から、中高年職業訓練生の就職支援を平成23年度から担当してきました。突然就職希望先を決めてしまい、その結果突然早期離職してしまうケースや、なかなか就職希望先が決まらないケースも見てきました。それには、それなりの理由があります。つまり、就職には、いきあたりばったりではなくある程度のおおまかなデザインが必要なのです。デザインとは何か、キャリアとは何かを見直しながら、自分自身の進路への道筋を体得していきます。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「キャリアデザイン」の目的は、「キャリア」および「デザイン」を用語として理解を深めることで、将来的に自分自身の人生設計を自律的に可能にしていくことです。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>キャリアデザインをしていくためには、「やりたいこと」、「やれること」、「やるべきこと」の三要素を明確にしていくことが極めて重要です。そのためにも、個人ワーク・グループワーク等の手段を通じて、表現力・コミュニケーション能力を養いながら、自己理解を明確にしていきます。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>これからの学生生活では、様々なボランティア(インターンシップ)・実習を通じて自らのキャリアの判断材料を作っていきます。何となく参加したボランティアが人生の大きな転換となることもあります。そのタイミングを逃さず捉えること、受け入れること、「これでいいのか?」と思うことなど、いくつもの劇的な場面に遭遇することでしょう。そのときに思った気持ちを大切に次のステップ(キャリア)に活かすことができれば、この授業の目標は到達されています。そして時には、意思決定のバリアも伴いますので、あらかじめ把握しておきましょう。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアって何?・パーティーゲーム「大運動会」でパーソナリティタイプを知ろう! キャリアの三要素 2. 今までの人生で影響を与えてきたこと、乗り越えてきたこと 3. メタ認知・ネガポジマップ 4. マズローの欲求段階説・ローの理論(何のために働く?・職業選択と親の養育態度) 5. エゴグラム 6. キャリアの虹・スーパーのアーチモデル・カードソート(自分の大切なもの、職業観は何?) 7. ジョハリの4つの窓 8. エリクソンのアイデンティティ発達理論・ギンズバーグの発達理論・スーパーのライフ・ステージ論 9. レビンソンの発達段階とトランジション・ブリッジスのトランジション3段階理論 10. シャインのキャリア・サイクルモデルとキャリアアンカー(私の軸ってこれだ!) 11. バンデューラのモデリング・自己効力 12. 卒業後の自分(5年~10年後の自分ではなく2~3年後を考えよう)・就活の流れ 13. 意思決定理論(クランボルツ「計画された偶発性」、ジェラットの積極的不確実性、) 14. 意思決定のバリア(カーニーの意思決定スタイル、ディンクリッジの意思決定スタイル) 15. 振り返り、まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>過去を振り返り、見つめ直すことをグループワークを通じて、将来を考えていきます。他の人へ言いたくないことなどは、言わずに自分の伝えられる範囲内のことで、グループワークを実践しましょう。</p>					
[使用テキスト・参考文献] すべてこちらで用意します。			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・課題・定期試験で総合的に評価します。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 情報リテラシー		授業の種類 演習		授業担当者 市川 貞 男	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・通年		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)					
<p>教員としての実務経験、教育委員会指導主事や研修会講師としての教育・保育現場への実務指導経験、大学教育での情報系スキルの教育実践経験を活用して、現場の実情に即した実践的な知識やスキルの定着が図れるように各回の授業を展開する。</p>					
[授業の目的・ねらい]					
<p>パソコンに慣れ親しみ、身近な道具として利用する方法を身に付け、保育や福祉の現場に活かす能力を養う。</p>					
[授業全体の内容の概要]					
<p>コンピュータによる文書作成、表計算、プレゼン資料の作成のための基本的な操作を、演習課題を通じて学び、Officeソフトの機能を体系的に理解する。</p>					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. マウスやキーボード操作に慣れ、基本的なOSやアプリケーションについて理解する。 2. ワードプロソフトのWordを使って、おたよりなどの文書を作ることができる。 3. 表計算ソフトのExcelを使って、表やグラフの作成とデータベース管理ができるようになる。 4. プレゼンテーション・ソフトPowerPointを使って、分かりやすく説得力あるスライドを作ることができる。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>この授業は、概略説明→操作練習→課題演習で構成される。</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 授業概要の説明と、PCやICTによる教育の情報化や情報モラルについて概説する。 2. パソコンの基礎 Windowsシステムを概説し、基本的な操作を練習する。 3. 基本操作の習得 メモ帳を使ってキーボードでの入力操作を練習する。【Unit1】 4. Windows ファイルやフォルダーの仕組みについて説明し、操作と検索の練習をする。【Unit2】 5. 文字入力 キーボードを使って文字入力の練習をする。【Unit3】 6. マウス操作 マウスを使ってイラストの描画練習をする。【Unit3】 7. Word① 文書作成の構成要素や機能を概説する。【Unit4】 8. Word② 簡単なおたよりを作成する。【Unit4】 9. Word③ Officeソフトの共通ツールを使って、表の作成や編集をする。【Unit5】 10. Word④ Officeソフトの共通ツールを使って、画像の挿入と加工や編集をする。【Unit5】 					

11. Word⑤ イラストの入った案内カードを作る。【Unit6】
12. Word⑥ 表が入ったおたよりを作成する。【Unit6】
13. Word⑦ やや複雑なレイアウトのおたよりを作成する。【Unit6】
14. Excel① 表計算ソフトの機能や構成要素について概説する。
15. Excel② データ入力や編集操作をする。
16. Excel③ 計算式の入力、表の集計、シートの保存などの操作練習をする。
17. Excel④ 表を作成する。【Unit7】
18. Excel⑤ 計算式を使ってフォームを作成する。【Unit7】
19. Excel⑥ データベースを作成する。【Unit8】
20. Excel⑦ データベースの更新をする。【Unit8】
21. Excel⑧ データの検索と集計をする。【Unit8】
22. Excel⑨ 表データの様式を作成する。【Unit9】
23. Excel⑩ 表データの集計をする。【Unit9】
24. Excel⑪ 表データをグラフで表示する。【Unit9】
25. Excel⑫ 関数を使って管理簿を作成する。【Unit9】
26. PowerPoint① プレゼンテーションの流れ、PowerPointの機能や構成要素について概説する。
27. PowerPoint② スライドの作成や編集などの操作をする。
28. PowerPoint③ プレゼンファイルを作成する。【Unit10】
29. PowerPoint④ 効果設定をして実行確認と修正をする。【Unit10】
30. 総合演習課題の実施やまとめ。

[履修に当たっての留意点]

1. 教科書の該当箇所を読んで、予習しておく。
2. 授業中には、集中して演習課題に取り組み、スキルを向上させる。
3. 授業後の未達成の演習課題や、欠席時の演習課題はそのままにしないで、やり遂げて提出フォルダにファイルで提出しておく。

[使用テキスト・参考文献]

『保育者のためのパソコン講座』 Windows10
 阿部正平・阿部和子・二宮祐子
 萌文書林

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
 演習時課題40%・総合課題40%・その他(授業の参加状況等)20%で成績評価を行う。

授業概要

授業のタイトル（教科名） 英語リテラシー	授業の種類 演習	授業担当者 グジェビック マレク	
授業の回数 30	時間数（単位数） 60（2）	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・通年	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>保育での実務経験はありませんが、大人だけでなく子どもも対象として今まで英語を教えてきました。現在でも教えている生徒の中には、日本人の小学生や園児がいます。</p>			
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>外国人と日常の様々な状況で、意思を通わせる能力が必要となってきました。仕事、趣味、家族、友達に関して自分が質問をしたり、質問に答えること、さらに外国人に指示を与えたりその理由を説明したりしなくてはいけない状況が生じます。保育士として、そういった状況に対応できる力を身につけることを目的とします。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>基本的な文法、多くの会話の練習、発音やイントネーションの練習、さらに英語を母国語とする国の中でいくつかの国の生活や文化についても学びます。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>学生は基本的な日常生活の範囲内で英語の意思の疎通ができるようになり、さらにその英語での意思疎通の能力を他の人にも教えることができるようになります。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions（序論）（自己紹介、会話の練習、ロールプレイング、質問の練習） 2. Greetings（あいさつ）（会話の練習、発音の練習） 3. Meeting People（人々との会合）（話し合うこと、会話の練習、書く練習） 4. Countries and Nationalities（国と国籍）（話したり書いたりする練習、絵をかいてみる） 5. Interests and Hobbies（関心と趣味）（会話の練習、書く練習） 6. Moving Around the Town（街の中を散歩する）（行き方を聞いたり教えたりする） 7. Doing Shopping（買い物をすること）（話し合いや会話の練習、買い物のリストを作る） 8. A Visit to the Zoo（動物園へ行ってみる）（現在進行形、ロールプレイング、書く練習） 9. Funny, Funnier, the Funniest（の比較級と最上級）（形容詞の変化、話し合ったり会話をする練習） 10. Telling the Time（時間を言う）（尋ねる練習、書く練習、会話の練習） 11. Time for Lunch（料理と食事について、会話の練習、自分の食べるものを決める） 12. You Can Do It!（能力について、自分や他の人について話すこと、会話） 13. How About a Swim With a Dolphin?（イルカと一緒に泳ぐのはどうですか？）（可能性について話す、ロールプレイング、会話） 14. Jobs and Professions（仕事と職業）（繰り返す活動、ロールプレイング、会話の練習） 15. More Interesting Than You Think（あなたが思うよりもっと面白い）（形容詞の変化、話し合い、書く練習） 16. My New Kitchen（私の新しいキッチン）（場所や家具の描写、モノローグ） 17. Hospitality（もてなし）（申し出をすること、会話の練習） 18. The Weather（天候）（天候の様子描写、絵を描く、会話） 			

19. Traveling to the Isle of Gold (金の小島へ旅行する) (田舎の場所、話し合い)
20. Going Abroad (外国へ行く) (見物、欲しいものを表現する、会話)
21. A Trip to Egypt (エジプトへの旅) (観光名所、会話の練習)
22. Let's Do It! (それをしよう!) (提案や招待をする、会話の練習)
23. Family Problems (家族の問題) (命令、ロールプレイング、)
24. Just a Week Ago (ちょうど一週間前) (過去の経験、会話の練習、書く練習)
25. An Accident (事故) (過去の不規則動詞、書く練習と読む練習)
26. Natural Disasters (自然災害) (特別な助動詞、話し合い、ロールプレイング)
27. When a Big One Strikes (特別な助動詞、会話、書く練習)
28. Have You Ever Tried One? (今までにやったことがありますか?) (現在完了形、ロールプレイング)
29. How Long? Since When? (どのくらい長く? いつからずっと?) (現在完了進行形、会話の練習)
30. General Review of Verbs and Auxiliary Verbs Usage (動詞と助動詞の使い方の全体的な復習) (会話の練習)

〔履修に当たっての留意点〕

授業に出席し参加すること。授業の準備をすること。指示のあったように発音の練習をすること。

〔使用テキスト・参考文献〕

How Are You Doing? – A Short Course of English for Children and Adults; Marek Grzebyk, 2020 (子供と大人のための英語の短いレッスン)

テキストは教員で準備します。

〔単位認定の方法及び基準〕

試験 (70%) と授業への参加 (30%)

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 体育実技		授業の種類 実 技		授業担当者 星野 邦彦	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 1年 後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)					
<p>[授業の目的・ねらい] 健康で心豊かな生活を営むための生涯スポーツの一環として、学生生活の充実を図る。スポーツを通して、行い方、競い方、技術の高め方などについて理解を深める。また、福祉保育にかかわる学生として障害者スポーツへの理解も深め、実践していく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生涯体育スポーツとして、参加者全員が楽しめるよう、各競技においてルールの工夫やゲーム内容について互いに話し合いの場を設け、学生同士の自主性が育つよう授業を展開していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 健康で豊かな生活を送るためにスポーツを生活の中に取り入れ、スポーツ実践を通じて健康の保持・増進に努めるとともに、周囲の人々と協力してスポーツを楽しむ態度・習慣を身に付ける。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 授業方法 評価方法等についての説明 2. 参加者全員が楽しめるためのルールの工夫 ソフトバレーボール 3. ソフトバレーボール チーム対抗戦 4. 表現 だんべえ踊り 5. 苦手な者も積極的に参加できるルールの工夫 バレーボール 6. バレーボール チーム対抗戦 7. 苦手な者も積極的に参加できるルールの工夫 バスケットボール 8. バスケットボール チーム対抗戦 9. 安全面の考慮・工夫 ドッジビー 10. ルールの工夫 ドッジビー チーム対抗戦 11. 全員が楽しめるためのゲーム運びの工夫 バドミントン 12. バドミントン ダブルス チーム対抗戦 13. 全員が楽しめるためのゲーム運びの工夫 卓球 14. 卓球 ダブルス チーム対抗戦 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] 日々の体調管理をしっかりと行う。 運動に適した服装で授業に参加する。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料等配布			[単位認定の方法及び基準] 出席・活動状況70%、実技試験30%により総合評価をおこなう。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育原理		授業の種類 講 義		授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら授業を行う。				
<p>[授業の目的・ねらい] 就学前の保育施設の多様化や現代社会の変化に伴う子どもや家庭の変化を理解し、保育を展開していくために保育者として守るべき大切な基礎・基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育全般について理解し、乳幼児の発達課程を理解する。また、年齢や発達段階に応じたの保育内容や保育の方法など専門職としての知識を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育の目的、歴史、内容を理解し子どもの発達や生活や遊びについて理解し説明することができる。 ・保育の専門性としての役割を説明することができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育を学ぶこと、保育者に求められていることについて解説する。(演習1, 2)【講義】 2. 子ども理解について説明する。(演習1～6)【講義】 3. 西洋の保育の歴史と日本の保育について説明する。(演習1)【講義】 4. 保育の理念を支える法規について解説し、子どもの権利条約等について説明する。(演習1)【講義】 5. 幼稚園、保育園、認定こども園の制度と機能について解説する。(演習1～4)【講義】 6. 少子化時代の子どもと現代の様々な保育の場について説明する。(演習1, 2, 3,)【講義】 7. 保育の目標と保育の内容について解説する。(演習1～4)【講義】 8. 環境を通して行う教育について解説する。(演習1)【講義】 9. 子どもの発達と個別支援の必要な子どもについて説明する。(演習1)【講義】 10. 保育計画と評価について説明する。(演習1, 2, 3)【講義】 11. 幼・保・小連携について説明する。(演習1, 2,)【講義】 12. 日本の保育の現状と課題について解説する。(演習1, 2, 3)【講義】 13. 子育て支援の必要性や今後の課題について説明する。(演習1～4)【講義】 14. 海外の保育と保育者のあり方について説明する。(演習1と演習1, 2, 3)【講義】 15. まとめ 				
<p>[履修に当たっての留意点] 保育に必要な用語や出来事や法令などについて興味関心を持ち、積極的に授業に参加し理解を深めていく。必要なことは、ノートに書き覚えていく。</p>				
[使用テキスト・参考文献] 生活事例からはじめる 保育原理 青踏社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% 受講態度出欠席遅刻等 20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 教育原理		授業の種類 講 義		授業担当者 市川 貞 男
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 公立学校教員としての実務経験、教育委員会指導主事としての教育・保育現場への指導経験、教育福祉系大学での教育研究を活かして、教育現場との有機的な関連性を感じさせるような授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] 保育者や教員を目指す者に必要な教育に関する理念、思想、制度や歴史について理解するとともに、教育や保育にかかわる今日的な課題について考えられるようにする。				
[授業全体の内容の概要] 教育の基礎的な理論、思想、制度や歴史などを概観して、教育学の基礎的な知識と教育制度の基本的な仕組みや役割を学び、教育にかかわる今日的な課題や社会的制約的環境について考察する。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 教育の本質や意義、教育制度の目的や内容について理解する。 2. 教育の歴史から、教育のあり方や子どもの捉え方など家庭や社会における教育について理解する。 3. 幼児教育や保育において重要な教育理論や思想について理解する。 4. 幼児期の教育をめぐる現在の動向について関心を持ち、教育を担う側の視点から考えることを身につける。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] この授業はテキストに沿って講義を中心に進め、適宜、教育にかかわる今日的な課題について、学生と教員間、学生と学生間のディスカッションを取り入れる。				
コマ数 1.【教育の本質・意義】 教育とは何か、教育の必要性や可能性、保育との関連について概説する。(講義「人物で学ぶ 教育原理」第1章) 2.【西洋の教育思想①】 コメニウス、ロック、ルソーの思想について概説する。(講義 同上 第2章) 3.【西洋の教育思想②】 フレーベル、デューイ、モンテッソーリの思想について概説する。(講義 同上 第2章) 4.【日本の教育思想①】 貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想について概説する。(講義 同上 第3章) 5.【日本の教育思想②】 森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想について概説する。(講義 同上 第3章) 6.【外国教育史】 古代ギリシャから近代ヨーロッパにおける教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第4章) 7.【日本教育史】 古代から昭和初期までの日本の教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第5章) 8.【教育制度と教育実践】 学校制度としての教育の仕組みと変革、その内容や方法について概説する。 (講義「人物で学ぶ 教育原理」第6章、「保育者・小学校教員のための教育制度論」第1章・第2章) 9.【学校教育に関する仕組み】 学校の基本的な仕組みについて概説する。(講義「保育者・小学校教員のための教育制度論」第3章・第6章) 10.【就学前の教育・保育に関する仕組み】 就学前の教育・保育、児童福祉に関する基本的な仕組みを概説する。(講義 同上 第4章・第5章) 11.【教育行政・学校経営の仕組み】 教育活動を支える教育行政・学校経営の仕組みや近年の改革動向について概説する。(講義 同上 第9章) 12.【教員に関する仕組み】 教員を支える教員制度について概説する。(講義 同上 第8章) 13.【特別支援教育の仕組み】 特殊教育から特別支援教育への転換や、体制整備について概説する。(講義 同上 第7章) 14.【問題行動への対応や安全に関する仕組み】 子どもの問題行動や事故について概説し、学校安全や安心について考察する。(講義 同上 第10章・第13章) 15.【まとめ】 保育・教育改革の動向について概観し、これまでの学びを振り返ってまとめをする。				
[履修に当たっての留意点] 1. 各回の事前事後に、テキストの「学習の手引き」を活用すること。 2. 日ごろから教育に関する報道に関心を持って、情報収集に心がけること。				
[使用テキスト・参考文献] 「人物で学ぶ 教育原理」中村弘行 (三恵社) 「保育者・小学校教員のための教育制度論」 内山絵美子 他 編著 (教育開発研究所)		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験80%・授業の参加状況・提出物等(20%)で成績評価を行う。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 教育原理		授業の種類 講 義		授業担当者 市川 貞 男
授業の回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 公立学校教員としての実務経験、教育委員会指導主事としての教育・保育現場への指導経験、教育福祉系大学での教育研究を活かして、教育現場との有機的な関連性を感じさせるような授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] 保育者や教員を目指す者に必要な教育に関する理念、思想、制度や歴史について理解するとともに、教育や保育にかかわる今日的な課題について考えられるようにする。				
[授業全体の内容の概要] 教育の基礎的な理論、思想、制度や歴史などを概観して、教育学の基礎的な知識と教育制度の基本的な仕組みや役割を学び、教育にかかわる今日的な課題や社会的制度的環境について考察する。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 教育の本質や意義、教育制度の目的や内容について理解する。 2. 教育の歴史から、教育のあり方や子どもの捉え方など家庭や社会における教育について理解する。 3. 幼児教育や保育において重要な教育理論や思想について理解する。 4. 幼児期の教育をめぐる現在の動向について関心を持ち、教育を担う側の視点から考えることを身につける。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] この授業はテキストに沿って講義を中心に進め、適宜、教育にかかわる今日的な課題について、学生と教員間、学生と学生間のディスカッションを取り入れる。				
コマ数				
1.【教育の本質・意義】 教育とは何か、教育の必要性や可能性、保育との関連について概説する。(講義「人物で学ぶ 教育原理」第1章)				
2.【西洋の教育思想①】 コメニウス、ロック、ルソーの思想について概説する。(講義 同上 第2章)				
3.【西洋の教育思想②】 フレーベル、デューイ、モンテッソーリの思想について概説する。(講義 同上 第2章)				
4.【日本の教育思想①】 貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想について概説する。(講義 同上 第3章)				
5.【日本の教育思想②】 森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想について概説する。(講義 同上 第3章)				
6.【外国教育史】 古代ギリシャから近代ヨーロッパにおける教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第4章)				
7.【日本教育史】 古代から昭和初期までの日本の教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第5章)				
8.【教育制度と教育実践】 学校制度としての教育の仕組みと変革、その内容や方法について概説する。 (講義「人物で学ぶ 教育原理」第6章、「保育者・小学校教員のための教育制度論」第1章・第2章)				
9.【学校教育に関する仕組み】 学校の基本的な仕組みについて概説する。(講義 同上 第3章・第6章)				
10.【就学前の教育・保育に関する仕組み】 就学前の教育・保育、児童福祉に関する基本的な仕組みを概説する。(講義 同上 第4章・第5章)				
11.【教育行政・学校経営の仕組み】 教育活動を支える教育行政・学校経営の仕組みや近年の改革動向について概説する。(講義 同上 第9章)				
12.【教員に関する仕組み】 教員を支える教員制度について概説する。(講義 同上 第8章)				
13.【特別支援教育の仕組み】 特殊教育から特別支援教育への転換や、体制整備について概説する。(講義 同上 第7章)				
14.【問題行動への対応や安全に関する仕組み】 子どもの問題行動や事故について概説し、学校安全や安心について考察する。(講義 同上 第10章・第13章)				
15.【まとめ】 保育・教育改革の動向について概観し、これまでの学びを振り返ってまとめをする。				
[履修に当たっての留意点] 1. 各コマ内容の履修前後に、テキストの「学習の手引き」を活用すること。 2. 日ごろから教育に関する報道に関心を持って、情報収集に心がけること。				
[使用テキスト・参考文献] 「人物で学ぶ 教育原理」中村弘行 (三恵社) 「保育者・小学校教員のための教育制度論」 内山絵美子 他 編著 (教育開発研究所)			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験80%・授業の参加状況・提出物等(20%)で成績評価を行う。	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭福祉		授業の種類 講 義		授業担当者 橋本 祐
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・前期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい] 少子化や核家族化が社会的問題として取り上げられ、それに伴って家庭の養育機能の低下に注目が集まっている社会背景や、社会全体で子育て支援をしていく必要性を理解する。さらに、保育者の専門性としての子どもの権利擁護、及び最善の利益について、福祉的臨床観を身に付けていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業の根幹となる児童家庭福祉の基本理念と法体系について学んでいく。さらに児童の権利条約に基づく子どもの人権を社会全体で擁護していく必要性を学び、保育者として必要な専門知識について解説していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のオリエンテーションを行い、子ども家庭福祉の理念と概念について理解する。 2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷を理解し、現代社会と子ども家庭福祉について学ぶ。 3. 子ども家庭福祉の構造とデータから現代の子どもについて理解する。 4. 子どもの権利擁護における歴史の変遷や条約、また子どもの権利を護る仕組みについて講義を行う。 5. 子ども観の変遷・児童の権利に関する条約と我が国の現状について講義を行う。 6. 児童福祉施設の種別について概観し、実習に対する意識を高める。 7. 障害者総合支援に基づく施設の種別について概観し、実習に対する意識を高める。 8. 子ども家庭福祉の専門職や実施者について理解し、将来的に専門家として働く自身を意識できる。 9. 児童相談所の機能及び、要保護児童対策地域協議会について理解できる。 10. 少子化と子育て支援サービスや母子保健、また多様な保育ニーズへの対応について学ぶ。 11. 児童虐待、ドメスティックバイオレンスの防止・社会的養護について学ぶ。 12. 障害のある子どもや、非行、貧困・外国につながる子どもとその家族について学ぶ。 13. ひとり親家庭や、現代の子ども家庭福祉の課題と展望について講義を行う。 14. 子ども家庭福祉の歴史を概観する。 15. まとめと考察。 				
<p>[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。</p>				
[使用テキスト・参考文献] 吉田眞理(2018) 児童の福祉を支える子ども家庭福祉		[単位認定の方法及び基準] 授業態度30% 試験 70%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 社会福祉		授業の種類 講 義		授業担当者 伊藤 弘子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年前期	必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 精神保健福祉士として、医療・福祉の現場でソーシャルワーカーとして勤務してきた経験を活かし、社会福祉の基礎を実際の事例を示しながら講義していく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基本的理念・原則を学ぶ。 2. 社会福祉の歴史的展開を踏まえて、現在の仕組みを理解する。 3. 社会福祉援助活動の方法を概観し社会福祉に関わる専門職としての保育士の位置づけを理解する <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会福祉の歴史、理念、法体制、実態を学習し、時代の流れの中でどのような発展をしてきたかについて学ぶ。また、被援助者とそのニーズ、福祉行政の変遷、社会福祉の援助方法、専門職の課題、利用者保護等について学習する中で、保育分野との関連についても理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の意義、法体系、実施体系の概要が理解できるようになる。 2. 多職種間での連携と相互支援の重要性について理解できるようになる。 3. 地域で起こる様々な生活課題に対する相談援助技術や苦情解決の仕組みが把握できるようになる。 4. 児童の人権や家庭支援について、社会福祉及び児童福祉の視点から理解できるようになる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉への理解:福祉的課題を身近なものとして捉え、社会福祉の基本を理解できるよう概説を行う。【講義】 2. 社会福祉の歴史①(欧米):欧米における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】 3. 社会福祉の歴史②(日本):日本における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】 4. 子どもと家庭と福祉①:妊娠から出産、養育にかかわる制度について解説を行う。【講義】 5. 子どもと家庭の福祉②:子どもの貧困、関連行政機関、子どもの権利について解説を行う。【講義】 6. 子どもと家庭の福祉③:児童福祉関連施設やサービス利用の仕組み、関連法についての解説を行う。【講義】 7. 子どもが出生してから高校を卒業するまでの間に必要な支援をまとめる。【講義・演習】 8. 社会保障:医療保健・年金制度を中心に社会保険を解説する。【講義】 9. 障がい児・者福祉①:障がいの捉え方、障がい児・者福祉について講義を行う。【講義】 10. 障がい児・者福祉②:障がいの種類、関連法・制度についての解説を行う。【講義】 11. 地域福祉:地域福祉の概説、地域福祉を支える機関・団体について解説を行う。【講義】 12. ソーシャルワーク:保育士とソーシャルワークの関連性、技法・援助技術に関して解説を行う。【講義】 13. 低所得者の福祉:生活保護の基本的な考え方や種類について解説を行う。【講義】 14. 高齢者福祉:介護保険制度及び利用者保護について解説を行なう。【講義】 15. まとめと解説 科目全体の総括を行なう。 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>テキスト内で提示される事例を事前に読み、授業の概要を理解してから授業に臨む。毎回、授業に関するシートの提出を課すので、必ず提出すること。授業で配布された資料は、大切に保管し、復習に活用すること。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>直島正樹・原田句哉編著 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 萌文書林、2017</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>確認テスト 10%・定期テスト 60%・受講態度 30%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭支援論		授業の種類 講 義		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必 修		
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 多様性を増し変化し続ける現代社会の家庭の姿を理解し、家庭を支援する理論を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 子育て家庭を取り巻く社会状況の変化や子育て家庭への支援体制について理解し、家庭支援の意義や保育者としての新聞報道や身近な事例と演習を交えながら具体的に学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・現代社会における家庭支援の必要性とその実際を理解し寄り添えるようになる。 ・子どもの保育に関する相談・援助・助言等に取り組むための手法を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.子ども家庭支援の意義と役割(家庭支援の意義と必要性について解説する。)演習問題1-1(講義) 2.子ども家庭の目的と意義(家庭支援の機能について解説する。)演習問題1-2、3(講義) 3.子どもの発達と親発達(人の人生について解説する。)(講義) 4.保育士の専門性を活かした子ども家庭支援と意義(ジェノグラム、エコマップ、社会資源について調べ説明をする。)演習問題3-1, 2, 3(講義) 5.子どもの育ちの喜びの共有(ロールプレイ、ディスカッションについて説明し実践する。) 演習問題3-4, 5, 6(講義・グループワーク) 6.保護者及び地域が有する子育て(保護者の養育力向上について解説する。) 演習問題3-7, 8(講義) 7.保育士に求められる基本的態度(ロールプレイをする。) 演習問題3-9, 10, 11, 12, 13(講義・グループワーク) 8.家庭の状況に応じた支援(相談対応と家庭機能と地域資源の活用を説明する。)演習3-14, 15, 16 (講義) 9.子育て家庭の支援体制(保育士になったつもりで考えてみる。)演習問題4-1 (講義) 10.子育て支援施策(ロールプレイをする。)演習問題4-2 (講義・グループワーク) 11.次世代育成支援施策の推進(ワークライフバラ、男女共同参画を説明する。)演習問題4-3(講義) 12.多様な支援の展開と関係機関との連携(児童虐待やDV、保育所保育を解説する。)演習問題5-1 (講義) 13.地域子育て家庭への支援(要保護児童への対応について説明する。)演習問題5-2(講義) 14.現状と課題(近隣会議を通じた支援について解説する。)講義 15.まとめ					
[履修に当たっての留意点] 自分の考えをまとめ演習問題に取り組む。グループワークでの積極的な発言をしていくことを心掛け、他者の意見にも耳を傾ける。保育者になったことを想定して考えていく。					
[使用テキスト・参考文献] 児童の福祉を支える家庭支援論			[単位認定の方法及び基準] 定期試験80% 受講態度、出欠席遅刻、提出物等20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 社会的養護 I		授業の種類 講 義		授業担当者 大山 知恵子	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>特別支援学級に携わってきた。児童・生徒の中には施設から通学している子や、家庭から通学していたが途中から施設入所となる子もいた。そういった子どもたちに関わってきた経験を活かして、社会的養護の意義や現状について伝えていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>入所施設におけるケアの基礎を提供するだけではなく、「社会的養護」として、社会全般、福祉全般における児童養護の価値基礎を提供することを目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>施設入所は閉ざされた場ではなくなり、家庭に近い機能を持つとともに、地域にその機能を開くことを求められ、福祉施設の機能が社会全体、そして、地域や家庭にも必要とされるように、現在社会の中で子どもの権利をどのように護っていくべきかを習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>社会的養護の原理を総体的に理解し、実践に役立たせる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション 社会的養護の理念と原理について 2. 社会的養護の歴史の変遷について 3. 社会や家庭の役割について 4. 社会的養護の原則Ⅰ 日常生活支援について 5. 社会的養護の原則Ⅱ 自己実現に向けた支援について 6. 社会的養護の原則Ⅲ 治療的支援について 7. 社会的養護の原則Ⅳ 自立支援について 8. 社会的養護の原則Ⅴ 生と性の倫理について 9. 社会的養護の制度と実施体系について 10. 乳児院と児童養護施設について 11. 障害児の入所施設について 12. 児童自立支援施設と児童心理治療施設について 13. 里親とファミリーホームでの養育について 14. 社会的養護の現状と課題について 15. 被措置児童の虐待防止について まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>提示された課題は、次の授業までに調べる。疑問に思ったことは調べたり質問したりして、しっかりと理解する。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』 萌文書林 編著者 吉田真理著 著者 高橋一弘 村田紋子			試験 50% ・ 提出物 50%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 児童福祉特殊		授業の種類 講 義		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 選 択	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育の新制度に伴い幼児の発達性の観点から、幼小の接続と同時に乳幼児からの発達の道筋を理解し、適切な指導助言について学修する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>教育・保育をすすめるうえでの「保育者」の役割と専門性の理解、および実際の教育・保育方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育方法の基本的な考えを理解し、現状を正しく把握し、それに沿った指導や援助ができる。 ・保育者として、子どもたちの感性や興味関心に反応し、保育を創造する保育方法などを学び実践できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保育方法とは何かについて説明する。(講義) 2.子ども理解からはじまる保育方法について説明する。(講義) 3.環境を生かした保育方法を概説する。(講義、グループワーク) 4.遊びを通しての総合的な指導方法を説明する。(講義、グループワーク) 5.個と集団を生かした保育方法について説明する。(講義) 6.子どもにふさわしい園生活と保育形態について説明する。(講義) 7.3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 8.3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 9.0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 10.0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 11.保育の計画・実践・評価について説明する。(講義、指導案作成) 12.家庭・地域との連携を生かした保育について説明する。(講義) 13.小学校との交流活動のデザインについて説明する。(講義) 14.配慮を要する子どもへの保育方法について説明する。(講義) 15.まとめと解説 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新保育講座6 保育方法・指導法			[単位認定の方法及び基準] 受講態度出欠席遅刻等 20% 定期試験 80%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育の心理学		授業の種類 講 義		授業担当者 橋本 祐	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・前期	必修・選択 必 修		
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育に必要とされる心理学的知識を学び、子どもの行動に対する理解を深める。 2. 保育現場において生じる問題や課題に対する理解を深め、適切な対応を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 保育現場における様々な状況を想定し、子どもと発達と心理的側面から考察を行う。また事例を通じて子どもや保護者に対する支援のあり方について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 心理学における学問的意義や今後の学習に対するオリエンテーションを行う。 2. 発達の原則やその要因について解説する。 3. 子ども観の変遷と、発達の理論について講義を行う。 4. 情動の発達や、愛着の問題、アイデンティティや非認知能力について講義を行う。 5. 身体機能、運動機能の発達について解説する。 6. 認知発達とピアジェの理論について学ぶ。 7. 言語発達と非言語能力、ヴィゴツキーの理論について講義を行う。 8. 心理査定の意味や、心理検査と知能検査、それを用いた支援について解説する。 9. 0歳から5歳にかけての発達について解説する。 10. 学童期から老年期にかけて解説する。 11. 学習理論や条件付けについて学ぶ。 12. パーソナリティについて、古典的な類型論と特性論について学ぶ。 13. 遊びの過程と意味とソーシャルスキルトレーニングについて講義と演習を行う。 14. 心理学史における、各理論の位置付けについて解説を行う。 15. まとめと解説。					
[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。					
[使用テキスト・参考文献] 大浦賢治(編)(2020) 実践につながる新しい保育の心理学			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30% 試験 70%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 講 義		授業担当者 橋本 祐
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・後期 福祉保育学科・2年・後期	必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえて講義を行う。				
[授業の目的・ねらい] 子どもたちだけでなく、子どもたちがそこで生まれ人格形成をする場である家族の役割や機能を理解し、実際に保育園等で出会う子どもと家庭の出来事に対応するための知識基盤と感性を育成することを目的とする。				
[授業全体の内容の概要] 教科書に基づき、基本的な知識を学習する。そして事例や演習課題を通して、保育者としての福祉観や、対応の方法を考えていく。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的にとらえる視点を取得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.授業のオリエンテーション。幼児期から学童期にかけての発達の特徴を確認する。 2.学童期の発達とその特徴および思春期の始まりについて振り返り、親子関係について理解する。 3.思春期・青年期の親子関係・仲間関係と道徳性について学び、親子関係が問われる問題について考える。 4.心理社会的モラトリアムとアイデンティティ形成について自分を振り返りながら学ぶ。 5.成人期から高齢期の発達の特徴について、親世代の抱える課題を通して理解していく。 6.老年期の課題と家族について理解を深める。 7.家族システムと家族発達について、家族をシステムとしてみる視点について学び、家族療法を理解する。 8.家族の発達について、構成員の年齢とともに機能が変化していくことを学ぶ。 9.親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達について、不適切な養育や愛着の問題などとともに学習する。 10.愛着の重要性を、発達障害とパーソナリティ障害の問題とともに解説する。 11.子育て環境の社会状況変化とワークライフバランスについて、アロマザリングの考え方とともに学ぶ。 12.多様な子育て家庭への支援について、子育て支援の重要性について考える。 13.特別な配慮を必要とする家庭への配慮について、貧困や、虐待、精神疾患等の視点から考える。 14.基本的な生活習慣と幼児期・学童期にみられる精神障害について、具体的な事例をもとに学ぶ。 15.災害と子どもについて、PTSDや災害時の子どもの適応行動や遊びについて理解する。				
[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。				
[使用テキスト・参考文献] 本郷一夫・神谷哲司(編著、2019)「子ども家庭支援の心理学」		[単位認定の方法及び基準] 授業参加態度 30% 定期テスト 70%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの理解と援助		授業の種類 演 習		授業担当者 金沢・保育学科教員																															
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・前期		必修・選択 必 修																															
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼稚園、保育園で幼稚園教諭、保育士としての経験を有している。子どもを理解するために必要な知識と援助技術を習得できるよう授業を行う。</p>																																			
<p>[授業の目的・ねらい] 子どもの心身の発達と保育実践、経験や学習過程の理解、保育における発達援助、子どもの理解に基づく保育実践の中での援助の具体的な方法など習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子ども理解の知識を身に付け、さらにドキュメンテーション(保育におけるさまざまな記録)を活用して、子どもの理解をより深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①子どもを理解するための具体的な方法を身につける。 ②保育実勢において、実態に応じた子ども個々の発達や学びを把握する必要性を理解する。 ③保育士の援助や態度、記録、共有について理解する。</p>																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 35%;">1.オリエンテーション</td> <td>・授業概要説明、子どもを理解するとはどのようなことかなどを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>2.子ども理解から始まる保育</td> <td>・共感的理解と関わりなどについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>3.子どもを理解する方法</td> <td>・指針や要領にみる子どもの理解の基本などについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>4.子どもの育ちの様子</td> <td>・子どもの生活と遊びなどについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>5.子ども同士の関わり</td> <td>・子どもの同士の関わり、子どもと保育者の関わりなどについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>6.集団の関わり</td> <td>・子どもが集団生活で得ることなどについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>7.葛藤とつまずき</td> <td>・子どもの葛藤やつまずきなど理解し援助などについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>8.保育の環境理解と構成</td> <td>・保育における環境とは何かなどについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>9.環境の変化</td> <td>・子どもを取り巻くさまざまな環境の変化などについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>10.子ども理解と発達援助</td> <td>・子どもの個人差と発達過程、援助などについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>11.特別な配慮を必要とする理解と援助</td> <td>・インクルーシブ保育、困り感への気づき、個別指導計画を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>12.発達の連続性と就学への支援</td> <td>・子どもの発達と学びのさまざま連続性などについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>13.観察、記録</td> <td>・子どもを理解するための観察、記録などについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>14.保育者、保護者の情報共有</td> <td>・子ども理解のための保育者と保護者との情報共有を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>15.まとめ</td> <td>・子どもの理解と援助について振り返る。【演習】</td> </tr> </table>						1.オリエンテーション	・授業概要説明、子どもを理解するとはどのようなことかなどを学ぶ。【演習】	2.子ども理解から始まる保育	・共感的理解と関わりなどについて学ぶ。【演習】	3.子どもを理解する方法	・指針や要領にみる子どもの理解の基本などについて学ぶ。【演習】	4.子どもの育ちの様子	・子どもの生活と遊びなどについて学ぶ。【演習】	5.子ども同士の関わり	・子どもの同士の関わり、子どもと保育者の関わりなどについて学ぶ。【演習】	6.集団の関わり	・子どもが集団生活で得ることなどについて学ぶ。【演習】	7.葛藤とつまずき	・子どもの葛藤やつまずきなど理解し援助などについて学ぶ。【演習】	8.保育の環境理解と構成	・保育における環境とは何かなどについて学ぶ。【演習】	9.環境の変化	・子どもを取り巻くさまざまな環境の変化などについて学ぶ。【演習】	10.子ども理解と発達援助	・子どもの個人差と発達過程、援助などについて学ぶ。【演習】	11.特別な配慮を必要とする理解と援助	・インクルーシブ保育、困り感への気づき、個別指導計画を学ぶ。【演習】	12.発達の連続性と就学への支援	・子どもの発達と学びのさまざま連続性などについて学ぶ。【演習】	13.観察、記録	・子どもを理解するための観察、記録などについて学ぶ。【演習】	14.保育者、保護者の情報共有	・子ども理解のための保育者と保護者との情報共有を学ぶ。【演習】	15.まとめ	・子どもの理解と援助について振り返る。【演習】
1.オリエンテーション	・授業概要説明、子どもを理解するとはどのようなことかなどを学ぶ。【演習】																																		
2.子ども理解から始まる保育	・共感的理解と関わりなどについて学ぶ。【演習】																																		
3.子どもを理解する方法	・指針や要領にみる子どもの理解の基本などについて学ぶ。【演習】																																		
4.子どもの育ちの様子	・子どもの生活と遊びなどについて学ぶ。【演習】																																		
5.子ども同士の関わり	・子どもの同士の関わり、子どもと保育者の関わりなどについて学ぶ。【演習】																																		
6.集団の関わり	・子どもが集団生活で得ることなどについて学ぶ。【演習】																																		
7.葛藤とつまずき	・子どもの葛藤やつまずきなど理解し援助などについて学ぶ。【演習】																																		
8.保育の環境理解と構成	・保育における環境とは何かなどについて学ぶ。【演習】																																		
9.環境の変化	・子どもを取り巻くさまざまな環境の変化などについて学ぶ。【演習】																																		
10.子ども理解と発達援助	・子どもの個人差と発達過程、援助などについて学ぶ。【演習】																																		
11.特別な配慮を必要とする理解と援助	・インクルーシブ保育、困り感への気づき、個別指導計画を学ぶ。【演習】																																		
12.発達の連続性と就学への支援	・子どもの発達と学びのさまざま連続性などについて学ぶ。【演習】																																		
13.観察、記録	・子どもを理解するための観察、記録などについて学ぶ。【演習】																																		
14.保育者、保護者の情報共有	・子ども理解のための保育者と保護者との情報共有を学ぶ。【演習】																																		
15.まとめ	・子どもの理解と援助について振り返る。【演習】																																		
<p>[履修に当たっての留意点] 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら学習する。</p>																																			
<p>[使用テキスト・参考文献] 『子どもの理解と援助 子ども理解の理論及び方法 ドキュメンテーション(記録)を活用した保育』入江礼子、小原敏郎 萌文書林 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 その他必要に応じて資料を配布する。 参考文献 『新・基本保育シリーズ10 子ども理解と援助』清水益治、森俊之 中央法規</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・態度・グループワーク・協調性・発表など) 40% 科目試験 60%</p>																																

授業概要

授業のタイトル (教科名) 子どもの保健		授業の種類 講義	授業の担当者 李 英姿
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科 1 年・後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもの保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の知識と事故の予防などの知識について理解する。また、保育における環境及び衛生管理並びに安全管理・実施体制について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの成長・発達過程の特徴を把握し、遺伝と環境の2大要因の見地から、子どもの罹りやすい病気について学び、理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常子どもの各段階の発育・発達について把握する。 2. 子どもによくみられる疾病とその予防対策を習得する。 3. 小児に多い事故とその予防対策を習得する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：子どもの保健の実践と課題について概説する 2. 講義：ディスカッション：子どもの身体発育の経過と発育曲線について説明する 3. 講義：視聴：身体発育とその評価について説明する 4. 講義：視聴：呼吸・循環・免疫・消化機能の発達について説明する 5. 講義：視聴：尿排泄・体温調節・内分泌機能の発達について説明する 6. 講義：感覚・神経機能の発達について説明する 7. 講義：子どもの病気の特徴について概説する 8. 講義：感染症について説明する 9. 講義：先天異常について説明する 10. 講義：内科疾患・乳幼児突然死症候群について解説する 11. 講義：子どもの精神保健について説明する 12. 講義：発達障害について解説する 13. 講義：ディスカッション：保育現場の事故防止と安全対策について解説する 14. グループ討論：まとめ学習する 15. 講義：復習と解説を行う 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 子どもの保健 I ななみ書房 参考資料は随時提示		[単位認定の方法及び基準] 期末試験 80% ノート 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの食と栄養		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年 前期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。支援対象家庭は食生活の問題を高率に抱えている。栄養を摂取するだけの食ではなく、広い意味での食生活を考えたい。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。 ・目的に合った調理、衛生行動、献立作成ができるようになる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義の進め方、課題、評価方法について説明する(講義)。 2. 子どもの健康と食生活の意義について解説する(講義)。自身の食生活をチェックする(演習)。 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 4. 食事摂取基準と献立作成・調理の基本(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 5. 実習室の使い方、衛生管理についての説明をする(講義)。献立作成(演習)。生徒プレゼン(発表)。 6. 炊飯と水加減。かつおだしの取り方。調理と試食(実習)。 7. 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼン(発表)。 8. 卵料理、茹で野菜、洋風スープ。調理と試食(実習)。 9. 幼児期の心身の発達と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 10. 幼児期の間食の調理と試食(実習)。 11. 学童期の心身の発達と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 12. 学童期の間食の調理と試食(実習)。 13. 生涯発達と食生活について解説する(講義)。生徒によるプレゼンテーション(発表)。 14. 妊娠期の貧血に勧めたい調理と試食(実習)。 15. まとめと解説。 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。 ・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。 			
[使用テキスト・参考文献] 「発育期の子どもの食と栄養」 菅原 園 他、学建書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの食と栄養		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年 後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。支援対象家庭は食生活の問題を高率に抱えている。栄養を摂取するだけの食ではなく、広い意味での食生活を考えたい。			
[授業の目的・ねらい] 食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。			
[授業全体の内容の概要] 子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。 ・目的に合った調理、衛生行動、献立作成ができるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育における食育の基本的考え方と評価方法について説明する(講義)。 2. 食育のための環境について解説する(講義)。食育便りの作成(演習)。 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(講義)。 4. 地域の関係機関、職員間の連携について解説する(講義)。保護者支援グループワーク(演習)。 5. 家庭における食事と栄養。実習レシピの解説(講義)。 6. 特定栄養素強化食の調理と試食(実習)。 7. 児童福祉施設における食事と栄養について解説する。実習レシピ解説(講義)。 8. 給食で供される料理の調理と試食(実習)。 9. 疾病および体調不良のある子どもへの対応を解説する。実習レシピの解説(講義)。 10. 病児に向けた調理と試食(実習) 11. 食物アレルギーについて解説する。実習レシピの解説(講義)。視聴覚教材。 12. アレルギー対応食の調理と試食(実習)。 13. 障害のある子どもへの対応について解説する。実習レシピの解説(講義) 14. 嚥下食の調理と試食(実習)。 15. まとめと解説。			
[履修に当たっての留意点] ・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。 ・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。			
[使用テキスト・参考文献] 「発育期の子どもの食と栄養」菅原 園 他、学建書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者福祉論 I		授業の種類 講 義		授業担当者 豊田 和泉	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年・後期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援学校では「健康の保持・心理的な安定・人間関係の形成・環境の把握・身体の動き・コミュニケーション」の6つを基本的に指導計画を作成しこれを実践していた。授業では、6つの基本をしっかりと説明し、学生が、障害のある児童、生徒の気持ちに寄り添い、生活年齢も尊重しながら成長のタイミングを見逃さないことが大切であることを理解してもらえるように、具体例を挙げながらより理解が深められるように進めていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育の専門職として、障害の概念や障害福祉の基礎知識について学ぶ。 ・障害のある方と向き合うために必要な知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・障害についての基礎的な知識を身につけ、日常生活への影響を与える機会にする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・障害特性の知識を身につけ、実習やボランティアの中で支援を工夫する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業の内容、進め方について説明する。 2.視覚障害、聴覚障害について説明する。 3.重複障害について説明する。 4.肢体不自由について説明する。 5.知的障害について説明する。 6.精神障害について説明する。 7.高次脳機能障害について説明する。 8.難病について説明する。 9.障害のある方から話を聞く。 10.障害者支援法の概要と基本的な考え方について説明する。 11.権利擁護、虐待防止について説明する。 12.地域生活支援について説明する。 13.連携と協働について説明する。 14.障害者福祉の今後の課題について説明する。 15.総合まとめ・解説 					
<p>[履修に当たっての留意点] 学生には、授業成果の達成度を高めるために、授業以外の自主学習(予習・復習)を授業1コマにつき、各回数時間程度促していく。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] ・試験やレポート評価の基準 試験(6)、授業態度(3)、豆テスト(1)</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者福祉論Ⅱ		授業の種類 講 義	授業担当者 齋藤 至孝
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年 前期	必修・選択 必 修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 知的障害者施設(就労支援施設)で生活支援員として7年、介護老人保健施設の支援相談員として8年の実務経験を活かし、実際の現場でのエピソードを交えながら、ボランティアや将来介護職等についてときに現場で役立つ内容の講義を行い、各自のイメージアップにつなげる。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい] 障害のある方と向き合うために、基本的な知識を身につけ、障害者福祉に興味をもってもらう。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害者福祉論Ⅰで学んだことを踏まえ、更に発展させた内容とし、知識を深め学び考える機会にする。具体的な教材や視覚教材を使い障害について理解しやすい授業にする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 学生が実習やボランティアで、利用者への理解を深められるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害(内部障害)のある人の生活について解説する【講義】 2 障害のある人に対する介護・基本的視点について解説する【講義】 3 基本的視点に基づいた個別支援について解説する【講義】 4 社会資源の利用と開発について解説する【講義】 5 家族への支援の際の視点について解説する【講義】 6 家族の状態の把握と介護負担の軽減について解説する【講義】 7 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携について解説する【講義】 8 地域におけるサポート体制について解説する【講義】 9 地域生活支援について解説する【講義】 10 自立生活運動、自立生活思想の歴史について解説する【講義】 11 自立生活と就労支援 について解説する【講義】 12 ICFの活用について解説する【講義】 13 環境、社会意識について解説する【講義】 14 政策・制度、計画づくりについて解説する【講義】 15 まとめと解説 			
<p>[履修に当たっての留意点] 毎回授業で行うテキストの範囲を読んでおくことを前提とする。授業で行うテキストの範囲は事前に知らせる。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 13(第4版) 「障害の理解」 (その他, 適宜資料を配布・紹介)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度 30% 試験(小テスト含) 70%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育内容総論		授業の種類 演習		授業担当者 霜田 道代
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年 前期	必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 保育園での実務経験を活かし、生活や遊びなど経験談、実践例を交えながら授業を行う。				
[授業の目的・ねらい] 幼児教育の基本について理解し、乳幼児にとって遊びは学びであることについて理解を深める。				
[授業全体の内容の概要] 幼児教育の基本、幼児理解、保育方法、保育内容、組み立て方などについて総合的に学ぶ。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・環境を通して行うこと教育とは何かについて理解する。 ・子どもにとって遊びは学びであるということを理解する。 ・保育の中で幼児理解や環境構成について理解する。 ・日々の保育実践の組み立て方法を理解する。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス「保育」とは何かについて考察する。(ディスカッション) 2. 保育内容の変遷について解説する。(講義・ワーク) 3. 環境を通して行う教育とは何かについて解説する。(講義・ワーク) 4. 環境を通して行う教育についてDVD学習を観て考察する。(ディスカッション) 5. 子どもの生活場面と保育内容について解説する。(講義・ワーク) 6. 0. 1. 2歳児の保育内容について解説する。(講義・ワーク) 7. 3. 4. 5歳児の保育内容について解説する。(講義・ワーク) 8. 子どもにとって遊びとは何かについて解説する。(講義・グループワーク) 9. 子どもにとって遊びとは何か、事例を通して考察する。(ディスカッション) 10. 協同的な学びと保育内容、行事をめぐる保育内容について解説する。(講義・ワーク) 11. 保育における計画の重要性について解説する。(講義・ワーク) 12. 保育に求められる多様性について解説する。(講義・ワーク) 13. 保育における記録について解説する。(講義) 14. 保育者の専門性とは、質の高い保育とは何かについて考察する。(ディスカッション) 15. まとめ 				
[履修に当たっての留意点] 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容をよく理解し、並行して講義を進めていきたい。				
[使用テキスト・参考文献] 生活事例から始める-保育内容-総論 保育所保育指針・幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		[単位認定の方法及び基準] 定期試験50% 授業態度30% 提出物20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 健康		授業の種類 演習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい] 心身体の健康に関する領域「健康」の狙いと内容を理解し、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために具体的な指導のあり方を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の健康に関して、現代社会の子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの発達段階や具体的な指導方法について習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」についてのねらいと内容を理解し、乳幼児期の心身体の発達について理解し説明できる。 ・0歳から就学前の乳幼児の遊びを中心とした保育実践を習得し子どもと遊ぶことができる。 ・食育、安全・衛生指導、安全管理のあり方が分かる。また、保護者への連携と健康指導を学び実践に結びつけ行うことができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育について解説し、幼児教育の目的と領域について説明する。(講義) 2. 環境を通しての教育と幼児教育の基本について解説する。(講義) 3. 保育者の役割と領域「環境」と他の領域との関係について説明する。(講義) 4. 運動能力の発達と情緒の安定について解説する。(講義) 5. 生活習慣の形成と子どもの発達と事故について解説する。(講義) 6. 最近の子どもたちと心身の変化について解説する。(講義) 7. 運動能力低下の原因と集団保育の役割を解説する。(講義) 8. 乳児・1～2歳児の遊びとルールのある遊び、遊具を使った遊びについて解説する。(講義) 9. 様々な遊びと環境構成について解説する。(講義) 10. 園児交流(実技) 11. 園生活と生活習慣(食と睡眠)について解説する。(講義) 12. 当番活動や保育者の役割と家庭との連携について解説する。(講義) 13. 安全教育について解説する。(講義) 14. 現代社会における今日的な課題について解説する。(講義) 15. まとめ 			
<p>[履修に当たっての留意点] 授業に積極的に参加し、子どもの成長と保育者の役割を保育士になった気持ちで考えていく。また、実践につなげるように「自分だったら」を想定して考え授業を受ける。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] * 新訂 * 事例で学ぶ保育内容 領域 健康</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% 授業態度、出欠席遅刻等 20%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 人間関係		授業の種類 演 習		授業担当者 白石 啓子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・前期	必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>領域「人間関係」において重要視されている「乳幼児期の子どもの人とかかわり」について、幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験を基に、事例を挙げて具体的に解説していく。保育者の人とかかわりは「子ども」「保護者」だけに留まらず、「同僚」や「他の機関」との連携も必須であることから、自らの人間関係の広げ方についてもグループワークなどを通して学んでいく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」における「ねらい」と「内容」を理解し、保育の視点を学ぶ。 ・乳幼児期の人とかかわりからみた「発達」や「遊び」を通しての育ちについて考察する。 ・保育者の役割について「ケア」の視点からの理解し、「人との関わりを支える」ことについて認識を深める。 ・領域「人間関係」における今日的課題を学び、保育の場の可能性と保育者の姿勢について検討する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間関係」という視点から見た子どもたちの「発達」「学び」について理解し、保育者がその「発達」「学び」をどのように支えるかを具体的に学び、人とかかわりを大切にした保育実践のための力を身につけることを目指す。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場で子どもたちとかかわる上で「人とかかわり」についての考え方の基盤を身につけ、実践に活かす。 ・保育の場で子どもたちが身近な人と親しみ、関わりを深めながら、愛情や信頼感をもつための「ケア」について知り、子どもたちが社会生活において望ましい習慣や態度を身につけるプロセスの意味と専門的な視点について理解する。 ・保育者(同僚)、保護者との関わりから、「人間関係」における学びの広がり、深まりを認識し、次につなげることができるようになる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く人間関係(社会的背景をふくめた「人間関係」のとらえ方) 解説→グループワーク 2. 領域「人間関係」と園で育まれる人間関係 解説→ワーク 3. 乳児期の人間関係(この時期の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人とかかわり) 解説→ワーク 4. 1歳以上3歳未満児の人間関係(この時期の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人とかかわり) 解説→ワーク 5. 3歳以上児の人間関係(この時期の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人とかかわり) 解説→ワーク 6. 子どもの人間関係と社会性・道徳性(規範意識の育ちと大人の役割) 解説→グループワーク 7. 多様な配慮と保育構想 8. 子どもの生活の中で育まれる人間関係 解説→グループワーク→発表 9. 子どもの遊びの中で育まれる人間関係 解説→グループワーク→発表 10. 家庭や地域との連携(保護者と保育者の人間関係、地域との連携) 解説→ワーク 11. 小学校生活への接続(領域「人間関係」の今日的課題を考える) 解説→グループワーク→発表 12. 保育の展開と指導計画 解説→ワーク 13. 指導計画と実践 解説→グループワーク→発表 14. 保育者が紡ぐ「人間関係」(保育者自身の人間関係、子ども理解と保育の質の向上) 解説→ワーク 15. まとめ(今後に向けて・・・学びの振り返りと自己の課題の明確化) ワーク→発表→解説 				
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開により、授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』菊地篤子著みらい(初版2020年) 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 環 境		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 子どもを取り巻く環境とその関わりについて実践的に学び、保育における環境の重要性やその意味を考えると共に乳幼児期の発達をふまえた環境構成や援助のあり方に理解を深める。					
[授業全体の内容の概要] 領域「環境」について理解し、子どもの発達と豊かな環境との関わりについての知識を深める。また、保育演習を通して生命の尊さや事物への探究心を養うことの重要性を習得する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・領域「環境」のねらいや内容を理解し、子どもを取り巻く環境との関わりと子どもの発達について理解し、説明できるようになる。 ・保育実践における環境構成と援助のあり方について習得し説明できるようになる。 ・保育の現場で行われる活動を行うことで、その活動のねらいや内容について理解し準備等の留意点が説明できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.領域「環境」についての理解と子どもを取り巻く環境の変化について説明をする。(第1章)【講義】 2.環境の領域について解説する。(第2章)【講義】 3.子どもの生活と環境について解説する。(第3章)【講義】 4.季節感を味わう【行事調べ】(第10章)【調べ学習】 5.自然とふれあい感動する【フィールドビンゴ】(第6章)【実技】 6.物事の法則性に気づく【小麦粘土】(第5章)【実技】 7.身の回りの物に愛着をもつ。科学を体感する。【廃材を使って製作】(第5章・第9章)【実技】 8.生命の営みに触れる【生き物の飼い方を調べてみよう】(第6章)【実技】 9.子どもと自然環境、社会環境、遊びと環境教育について説明する。(第13章)【講義】 10.子どもと物的環境、人的環境、情報メディアについて説明する。(第14章)【講義】 11.子どもと空間との関わり、数量と文字について 秘密の暗号解けるかな？ 「左右上下」数字の理解(第7章・第8章))【講義・グループワーク】 12.行事や地域環境とのかかわり 環境構成プロセス図を書いてみよう(第11章) 【講義・グループワーク】 13.環境構成について 保育室の環境構成を考えてみよう(第4章)【講義】 14.環境の現代的課題 統合保育と諸外国の保育について説明する。(第12章)【講義】 15.まとめ					
[履修に当たっての留意点] 授業には積極的に参加して受ける。製作等については準備品を忘れずに用意して創意工夫をして行う。					
[使用テキスト・参考文献] [新版]保育内容「環境」			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、出欠席遅刻、作品の提出等 20% 定期試験 80%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 言 葉		授業の種類 演 習		授業担当者 三澤 章子	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年・前期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） カールオルフ研究所で「子どもの音楽とダンス」を学び母国語(日本語)の大切さ「音・動き・言葉」からはじまる可能性を知る。その経験をもとに絵本の読み聞かせとわらべ歌を0～2歳の乳幼児におこなう子育て支援を運営。同時に多くの保育園で0～5歳の乳幼児に絵本の読み聞かせとわらべうたあそびをおこなっている。その中で子どもの言葉の育ちへのわらべうた・絵本の役わりを探っている。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 1 乳幼児期の言葉の発達について理解する。 2 乳幼児期の言葉を豊かに育む絵本に焦点をあて学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1 乳幼児の言葉の発達過程学ぶ。 2 絵本の絵や言葉の素晴らしさを知るとともに絵本の読み聞かせ実習をして実践力を養う。 3 絵本の可能性を学び劇などに応用できるようになる。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1 乳幼児の言葉の発達を学び保育者として適切な援助ができるようになる。 2 乳幼児の言葉を豊かに育む絵本の可能性を学び読み聞かせや劇などに応用ができるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「言葉とは？」説明する。 2. 「絵本に親しもう」各自の絵本の紹介「絵本の絵に注目しよう。」講義・ディスカッション 3. 「絵本の読み聞かせ」講義・実技・ディスカッション 4. 「絵本の読み聞かせとわらべうた」講義・実技・ディスカッション 5. 「お話を計画しよう」講義・実技・ディスカッション 6. 幼稚園での実習 7. 幼稚園での実習 8. 「絵本から劇を作ろう」講義・ディスカッション 9. 「絵本から劇を作ろう」講義・実技 10. 「絵本から劇を作ろう」実技 11. 劇の発表 12. 「乳幼児の言葉の発達過程」講義・ディスカッション 13. 「言葉の楽しさ美しさ」講義・ディスカッション 14. 「こどもの発達と言葉遊び」講義・実技 15. まとめと解説 					
<p>[履修に当たっての留意点] 自分の好きな絵本を見つけ自信をもって読み聞かせができるように各自、自分の絵本を準備する。 恥ずかしがらず人前で絵本を読めるよう努力してほしい。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 保育内容の「言葉」指導法 馬見塚昭久・小倉直子編著 ミネルバ書房</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 実技 50% ノートの提出 30% 授業態度 20%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 表現		授業の種類 演 習		授業担当者 金沢 正樹																															
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修																															
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼稚園、保育園で幼稚園教諭、保育士としての経験を有している。子どもの表現活動に必要な知識と技術を習得できるよう授業を行う。</p>																																			
<p>[授業の目的・ねらい] 領域「表現」のねらい及び内容を理解する。表現とは、日常的なものであることを意識し、日常的な表現、遊びの中の表現を大切にする。保育者に必要な感性、創造性を育む。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもは遊びを通してさまざまな事を学んでいる。子どもの発想や創造的な思考を理解するためにはそれに共感できる感性と創造性を持っていなければならない。自分の感性と創造性を高め、柔軟な思考を保っていくことが重要である。子どものさまざまな表現を受け止め理解していく柔軟な感性を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ②子どもの感性や創造性を豊かにするさまざまな遊びや環境構成などの知識や技術、表現力を身につける。 ③豊かな感性と創造性を身につける。</p>																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">1.オリエンテーション</td> <td>・授業概要説明、子どもにとっての表現を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>2.保育園における表現</td> <td>・領域「表現」のねらい、内容などについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>3.子どもの身体表現</td> <td>・子どもにとって身体表現とはについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>4.スポーツの名場面を表現に</td> <td>・スポーツと身体表現について学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>5.声で楽しむ音楽表現</td> <td>・子どもにとっての音楽表現について学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>6.音で楽しむ音楽表現</td> <td>・いろいろな音で表現するについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>7.子どもの造形表現を学ぶ</td> <td>・子どもにとっての造形表現について学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>8.造形での遊び方と工夫を学ぶ</td> <td>・保育者の援助と保育の展開について考える。【演習】</td> </tr> <tr> <td>9.言語表現</td> <td>・子どもにとっての言語表現とはについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>10.言葉を媒介とした表現遊び</td> <td>・いろいろな言葉遊びを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>11.始まりと出会いを創る</td> <td>・春の保育活動を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>12.イメージから表現へ</td> <td>・夏と子どもの表現を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>13.子どもの同士の発表会を計画しよう</td> <td>・秋を感じる子ども同士の発表会の計画を考える。【演習】</td> </tr> <tr> <td>14.総合的な活動計画を立案しよう</td> <td>・冬の造形を中心とした活動計画を考える。【演習】</td> </tr> <tr> <td>15.まとめ</td> <td>・領域「表現」の目指すもの。表現活動について振り返る。【演習】</td> </tr> </table>						1.オリエンテーション	・授業概要説明、子どもにとっての表現を学ぶ。【演習】	2.保育園における表現	・領域「表現」のねらい、内容などについて学ぶ。【演習】	3.子どもの身体表現	・子どもにとって身体表現とはについて学ぶ。【演習】	4.スポーツの名場面を表現に	・スポーツと身体表現について学ぶ。【演習】	5.声で楽しむ音楽表現	・子どもにとっての音楽表現について学ぶ。【演習】	6.音で楽しむ音楽表現	・いろいろな音で表現するについて学ぶ。【演習】	7.子どもの造形表現を学ぶ	・子どもにとっての造形表現について学ぶ。【演習】	8.造形での遊び方と工夫を学ぶ	・保育者の援助と保育の展開について考える。【演習】	9.言語表現	・子どもにとっての言語表現とはについて学ぶ。【演習】	10.言葉を媒介とした表現遊び	・いろいろな言葉遊びを学ぶ。【演習】	11.始まりと出会いを創る	・春の保育活動を学ぶ。【演習】	12.イメージから表現へ	・夏と子どもの表現を学ぶ。【演習】	13.子どもの同士の発表会を計画しよう	・秋を感じる子ども同士の発表会の計画を考える。【演習】	14.総合的な活動計画を立案しよう	・冬の造形を中心とした活動計画を考える。【演習】	15.まとめ	・領域「表現」の目指すもの。表現活動について振り返る。【演習】
1.オリエンテーション	・授業概要説明、子どもにとっての表現を学ぶ。【演習】																																		
2.保育園における表現	・領域「表現」のねらい、内容などについて学ぶ。【演習】																																		
3.子どもの身体表現	・子どもにとって身体表現とはについて学ぶ。【演習】																																		
4.スポーツの名場面を表現に	・スポーツと身体表現について学ぶ。【演習】																																		
5.声で楽しむ音楽表現	・子どもにとっての音楽表現について学ぶ。【演習】																																		
6.音で楽しむ音楽表現	・いろいろな音で表現するについて学ぶ。【演習】																																		
7.子どもの造形表現を学ぶ	・子どもにとっての造形表現について学ぶ。【演習】																																		
8.造形での遊び方と工夫を学ぶ	・保育者の援助と保育の展開について考える。【演習】																																		
9.言語表現	・子どもにとっての言語表現とはについて学ぶ。【演習】																																		
10.言葉を媒介とした表現遊び	・いろいろな言葉遊びを学ぶ。【演習】																																		
11.始まりと出会いを創る	・春の保育活動を学ぶ。【演習】																																		
12.イメージから表現へ	・夏と子どもの表現を学ぶ。【演習】																																		
13.子どもの同士の発表会を計画しよう	・秋を感じる子ども同士の発表会の計画を考える。【演習】																																		
14.総合的な活動計画を立案しよう	・冬の造形を中心とした活動計画を考える。【演習】																																		
15.まとめ	・領域「表現」の目指すもの。表現活動について振り返る。【演習】																																		
<p>[履修に当たっての留意点] 授業に積極的に参加し、固定概念に囚われず豊かな感性と創造性を養い共感しながら学習する。</p>																																			
<p>[使用テキスト・参考文献] 『表現指導法 感性を育て表現の世界を拓く』上野奈初美 萌文書林 その他、必要に応じて資料を配布する 参考文献 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・態度・製作・発表など) 40% 科目試験 60%</p>																																

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 音楽 I		授業の種類 演 習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子 高田葉月	
授業の回数 6 0	時間数(単位数) 1 2 0 (4)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>幼児教育の現場で必要とされる「音楽に関する活動」を進めていく上で必要となる、音楽の基本的な知識や楽器（ピアノ）の演奏技術を学び、習得するものとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ奏法の基礎を個人レッスンで学び、発展させる 2. 読譜力の習得と実践 3. 基礎的な音楽理論の習得 <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ奏法の基礎を理解する。初心者は教則本No. 49 までを終了させる 2. 読譜力を養い、自力で弾くことに慣れる 3. 音楽理論の基本を習得する 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業内容・教材説明・担当グループ分け・実技レッスン・アンケート）学園歌指導 2. ピアノ実技個人レッスン・音楽理論（初級） 3・4. // 5・6. // 7・8. // 9・10. ピアノ実技個人レッスン・音楽理論（初級）確認テスト 11・12. // 音楽理論（中級） 13・14. // 15・16. ピアノ実技前期中間進度見直し 17・18. // 19・20. ピアノ実技個人レッスン・音楽理論（中級） 21・22. // 23・24. // 25・26. // 27・28. 前期実技・筆記試験 29・30. 前期試験 追試験・再試験 (ソルフェージュは必要に応じて実施予定) 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>大学ピアノ教本（教育芸術社） ジュニアクラスの楽典問題集（ドレミ出版） プリント適宜配布</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>ピアノ実技試験 音楽理論筆記試験</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 音楽Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子 高田葉月	
授業の回数 60	時間数(単位数) 120(4)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する					
[授業の目的・ねらい] 前期で学んだ音楽の知識や技術を発展させる。					
[授業全体の内容の概要] 1. ピアノ奏法の習得に関して、学生個々の習熟度に応じた指導を行う 2. 読譜力の習得を進める 3. 音楽理論の知識を習得するため、課題を進める 4. 保育園実習で活用できる基本技術の習得					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ピアノ奏法の自学自習を習慣づけるようにして、基礎力を身につけるとともに、応用力に発展させることを目途とする。初心者はNo. 71までを終了とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1・2. ピアノ実技個人レッスン・音楽理論（上級） 3・4. " 5・6. " 7・8. " 9・10. ピアノ実技個人レッスン・音楽理論（上級）筆記試験 11・12. ピアノ実技・伴奏付け実技（保育実習事前指導）個人レッスン 13・14. " 15・16. " 17・18. " 19・20. " 21・22. " 23・24. " 25・26. 後期実技試験 27・28. 追・再試験／保育実習事前指導 29・30. 2年次への課題指導					
[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。					
[使用テキスト・参考文献] 大学ピアノ教本（教育芸術社） ジュニアクラスの楽典問題集（ドレミ出版） プリント適宜配布			[単位認定の方法及び基準] ピアノ実技試験 音楽理論筆記試験		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 音楽Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 吉野成子 長谷川 三保子 高田 葉月	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年前期	必修・選択 必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 1年次で学んだピアノの基礎技術を基に、保育の場で扱う教材を学習し、「うたう」ことを加えた技術の習得と表現方法を学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要] テキストより課題曲を決め「弾きながらうたう」ことができるようになるための個人指導を行う。課題曲が終了した者は、応用曲へ進む。使いやすい伴奏を自ら考え、弾けるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ピアノ伴奏をしながら豊かな声で、曲を理解して、子供たちをリードしてうたえるようにする。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要説明・個人レッスン(春期休暇課題) 2. 伴奏付け実技指導・歌唱指導・個人レッスン 3. 個人レッスン 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " ・進度の見直し 10. " 11. " 12. " 13. 前期実技試験 14. 追試験・再試験・実習事前実技指導 15. 実習事前実技指導 <p style="text-align: center;">※ 必要に応じて、実習先からの課題指導 他授業との関連を考慮</p>					
<p>[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 保育名歌ピアノ曲集（DOREMI） プリント適時配布			[単位認定の方法及び基準] 実技試験・授業態度		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 音楽Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子 高田葉月	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 担当教員は、小・中・高校やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 前期で学んだ技術の発展、実用への応用をめざす</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「課題曲」に取り組み、終了した者は、応用曲にすすむ 実習曲の提示に則した指導も行う</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 「弾きうたい」できる楽曲を増やす よく通る、豊かな声での歌唱をめざす</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前実技個人指導 2. " 3. " 4. " 5. 後期課題曲歌唱指導・個人レッスン 6. 個人レッスン 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. " 14. 後期実技試験 15. 追試験・再試験 <p style="text-align: center;">※必要に応じて、実習曲の指導 他授業との関連を考慮 歌唱指導適時</p>					
<p>[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 保育名歌ピアノ曲集 (DOREMI) プリント適時配布</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 実技試験・授業態度</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 図画工作 I	授業の種類 演 習	授業担当者 金沢 正樹																														
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年・前期																														
必修・選択 必 修																																
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>担当教員は、幼稚園、保育園で幼稚園教諭、保育士として、造形活動の指導経験を有している。さまざまな素材や用具を使っての造形活動に必要な知識と技術を習得できるよう授業を行う。</p>																																
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実技演習を通して、平面及び立体表現を学び、柔軟な思考や幅広い表現力を養う。また、保育の環境構成や教材・用具等子どもの造形活動の実践に必要な専門的な知識や技術を習得する。</p>																																
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもにとって造形活動は成長発達に欠かすことのできない重要な活動である。いろいろな素材や用具を使っての表現体験は、子どもの造形活動の内容をより豊かに、より創造的にする。また、それぞれの材料や用具のもっている特性や性質をよく理解し、それが子どもの造形活動に適しているかどうかを考えて行うことが大切である。実技演習を通して、平面及び立体表現の基礎を学び、色や形、材質、イメージ等、造形に対する興味や関心を持つ。</p>																																
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①子どもの造形活動を豊かに展開するために必要な専門的な知識や技術を身につける。 ②造形活動に係る教材等の活用と、保育の環境構成及び具体的な展開のための技術を習得する。 ③それぞれの材料や用具のもっている特性や性質をよく理解する。</p>																																
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">1.オリエンテーション</td> <td>・授業概要説明、子どもの造形活動と発達について。【演習】</td> </tr> <tr> <td>2.平面表現①</td> <td>・平面表現で使われる素材や用具の活用方法を知り体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>3.平面表現②</td> <td>・さまざまな平面表現技法を体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>4.立体表現①</td> <td>・立体表現で使われる素材や用具の活用方法を知り体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>5.立体表現②</td> <td>・簡単な造形活動を体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>6.平面表現③</td> <td>・さまざまな素材や用具で平面表現を応用する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>7.立体表現③</td> <td>・さまざまな素材で造形活動を応用する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>8.色について</td> <td>・補色、類似色など色の基礎を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>9.協働製作(平面表現)</td> <td>・平面表現における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>10.造形活動の展開方法</td> <td>・子どもの年齢や発達段階における造形活動の指導計画作成を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>11.協働製作(立体表現)①</td> <td>・造形における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>12.協働製作(立体表現)②</td> <td>・造形における協働での作品製作を体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>13.衣装作り①</td> <td>・イメージにあった衣装作りを体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>14.衣装作り②</td> <td>・イメージにあった衣装作りを体験する。【演習】</td> </tr> <tr> <td>15.まとめ、衣装作り発表</td> <td>・造形活動について振り返る。ファッションショーを体験する。【演習】</td> </tr> </table>			1.オリエンテーション	・授業概要説明、子どもの造形活動と発達について。【演習】	2.平面表現①	・平面表現で使われる素材や用具の活用方法を知り体験する。【演習】	3.平面表現②	・さまざまな平面表現技法を体験する。【演習】	4.立体表現①	・立体表現で使われる素材や用具の活用方法を知り体験する。【演習】	5.立体表現②	・簡単な造形活動を体験する。【演習】	6.平面表現③	・さまざまな素材や用具で平面表現を応用する。【演習】	7.立体表現③	・さまざまな素材で造形活動を応用する。【演習】	8.色について	・補色、類似色など色の基礎を学ぶ。【演習】	9.協働製作(平面表現)	・平面表現における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【演習】	10.造形活動の展開方法	・子どもの年齢や発達段階における造形活動の指導計画作成を学ぶ。【演習】	11.協働製作(立体表現)①	・造形における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【演習】	12.協働製作(立体表現)②	・造形における協働での作品製作を体験する。【演習】	13.衣装作り①	・イメージにあった衣装作りを体験する。【演習】	14.衣装作り②	・イメージにあった衣装作りを体験する。【演習】	15.まとめ、衣装作り発表	・造形活動について振り返る。ファッションショーを体験する。【演習】
1.オリエンテーション	・授業概要説明、子どもの造形活動と発達について。【演習】																															
2.平面表現①	・平面表現で使われる素材や用具の活用方法を知り体験する。【演習】																															
3.平面表現②	・さまざまな平面表現技法を体験する。【演習】																															
4.立体表現①	・立体表現で使われる素材や用具の活用方法を知り体験する。【演習】																															
5.立体表現②	・簡単な造形活動を体験する。【演習】																															
6.平面表現③	・さまざまな素材や用具で平面表現を応用する。【演習】																															
7.立体表現③	・さまざまな素材で造形活動を応用する。【演習】																															
8.色について	・補色、類似色など色の基礎を学ぶ。【演習】																															
9.協働製作(平面表現)	・平面表現における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【演習】																															
10.造形活動の展開方法	・子どもの年齢や発達段階における造形活動の指導計画作成を学ぶ。【演習】																															
11.協働製作(立体表現)①	・造形における協働での作品製作の在り方を学び体験する。【演習】																															
12.協働製作(立体表現)②	・造形における協働での作品製作を体験する。【演習】																															
13.衣装作り①	・イメージにあった衣装作りを体験する。【演習】																															
14.衣装作り②	・イメージにあった衣装作りを体験する。【演習】																															
15.まとめ、衣装作り発表	・造形活動について振り返る。ファッションショーを体験する。【演習】																															
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>①ハサミやのり等、造形活動に必要な用具を持参すること。※持参する用具についてはコマごとに事前に伝える。 ②ハサミやカッター等を使用する際には怪我に留意すること。</p>																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『生活事例からはじめる造形表現』吉田収、宮川萬寿美、野津直樹 青踏社 その他必要に応じて資料を配布する。 参考文献 『保育をひらく造形表現』榎英子 萌文書林 『幼児造形の基礎』樋口一成 萌文書林</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度(意欲・態度など) 30% 製作姿勢 30% 提出作品発表 40%</p>																															

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 図画工作Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 選 択	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
<p>[授業の目的・ねらい] 幼児期および自動機の発達段階に応じた、図画工作の目標と内容を理解したうえで基礎的な技術・知識を身に付け制作活動の喜びを子ども自ら感じられる活動になるよう様々な造形活動を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・創造的な造形活動を行う中で、実践に向けての指導の方法を習得する。 ・様々な教材に触れ、その特性を知り手法や方法を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 素材の特性を理解し、創造性豊かな様々なものを作ることができる。また、幼児指導において、発達段階に応じた援助について理解ができ実践できるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 秋の製作について説明する。(折り紙を使って折る、貼る、仕上げる。)【実技】 2. 秋の製作について説明する。(年齢別指導方法、折り紙を使って折る、貼る、仕上げる。)【実技】 3. プラ版つくりの説明をする。【実技】 4. プラ版つくりの説明をする。【実技】 5. 新聞紙遊びの説明をする。【実技】 6. 音のなる物作りの説明をする。【実技】 7. スライム作りの説明をする。【実技】 8. 野菜スタンプの説明をする。【実技】 9. 月日曜日天気の日めくり表を作る説明する。【実技】 10. バルーンアートについて説明する。【実技】 11. 友だちの顔を描くことについての説明をする。【実技】 12. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 13. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 14. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 15. まとめと解説 <div style="display: flex; justify-content: flex-end; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: right; padding-right: 20px;"> 場所 階段(1F～2F, 2F～3F 3F～4F) 合同教室、食堂 </div> </div>					
<p>[履修に当たっての留意点] 積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。</p>					
[使用テキスト・参考文献]			<p>[単位認定の方法及び基準] 提出作品 60% 授業態度、話し合いの様子事後報告書等 40%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) リトミック		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 選 択	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
<p>[授業の目的・ねらい] 音楽やリズムを通して子どもの豊かな育ちへの援助と指導ができるよう、実践的指導力を習得することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの感覚・意欲・創造性を育むため、音楽を構成している要素である音符・拍子等を体で表現し、リズム運動に必要な基礎となる体操やステップなどを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽から感じたことを身体で表現することができる。 ・音楽感覚を育てるためのリズム指導の重要性について理解し実践することができる。 ・幼児期のリズム指導のさまざまな手法を習得し実践できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.リトミックは何かについて説明する。(講義) 2.子どもの成長・発達と音楽(0・1・2歳)について説明する。(講義) 3.子どもの成長・発達と音楽(3・4・5歳)について説明する。(講義) 4.はじめのリトミックとして手遊びをする。(実技) 5.基礎リズムの動き(歩く、走る、ゆっくり歩くなど)をする。(実技) 6.基礎リズムの動き(ものを使って動いてみる)をする。(実技) 7.年齢別リトミックの実際(1歳)に動く。(実技) 8.年齢別リトミックの実際(2歳)に動く。(実技) 9.年齢別リトミックの実際(3歳)に動く。(実技) 10.年齢別リトミックの実際(4歳)に動く。(実技) 11.年齢別リトミックの実際(5歳)に動く。(実技) 12.リトミック指導をグループで考える。(グループワーク) 13.リトミック指導をグループで考える。(グループワーク) 14.リトミック指導のグループ発表をする。(グループワーク) 15.まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎からわかるリトミック！リトミック！ ・楽しみながら体を動かす 1～5歳児のかんたんリトミック 			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>受講態度、グループ活動や発表 80% 出欠席遅刻等 20%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 幼児体育		授業の種類 演習		授業担当者 金沢 正樹
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼稚園、保育園で幼稚園教諭、保育士として、運動遊びの指導経験及び、幼児体育指導者検定を有している。各運動遊びの環境構成や導入方法、実践、指導、補助などを理解し、習得できるよう授業を行う。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい] 子どもの運動遊びは、運動能力や理解度に差がある中で展開され、子どもたちの能力にあったものを選び、楽しく安全に行わなければならない。保育者は子どもたちの運動遊びを指導する際、訓練的にならず子どもたちが興味や関心を示し、積極的に取り組めるよう環境を設定し、年齢に応じて子ども達に提供しなければならない。この講義で発育発達に則したさまざまな運動遊びを知り、指導法を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ボール、鉄棒、跳び箱、マット、縄跳び、パラバルーン、リズムダンスなど、保育園や幼稚園で行われる運動遊びを体験し、子どもたちが安全に楽しく運動遊びに取り組めるように、指導法や留意点などを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①子どもの発育発達に則した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊びを考え指導できるようになる。 ②指導法や補助など、さまざまな運動遊びに必要な知識と技術を習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション ・授業概要説明、注意事項。遊具を使用しない体を使った少人数の運動遊びを体験する。【演習】 2.幼児の運動遊び ・遊具を使用しない体を使った集団の運動遊びを体験する。【演習】 3.鉄棒を使った運動遊び ・鉄棒の遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 4.乳幼児の運動遊び ・0歳からできる運動遊びや運動機能を向上させる運動を体験する。【演習】 5.跳び箱を使った運動遊び ・跳び箱の遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 6.ボールを使った運動遊び ・ボールの遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 7.縄跳びを使った運動遊び ・縄跳びの遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 8.マットを使った運動遊び ・マットの遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 9.パラバルーンを使った運動遊び ・パラバルーンの遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 10.パラバルーンを使った運動遊び ・パラバルーンのグループ発表をする。【演習】 11.プールを使った運動遊び ・プールの遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 12.リズムダンス遊び ・プールの遊び方や身に付く能力を理解し、正しい指導法と補助を体験する。【演習】 13.リズムダンス遊び ・グループ発表をする。【演習】 14.体力測定 ・新体力テストを体験する。【演習】 15.まとめ ・さまざまな運動遊びの振り返りをする。安全管理と応急処置を体験する。【演習】 				
<p>[履修に当たっての留意点] ①運動のできる服装(体操服・上履きや運動靴・髪を縛る・マフラーを外す・コートを脱ぐ・アクセサリを外す) ②積極的に体を動かし体験する。筆記用具を持参し必要に応じてメモをとる。水分やタオル、着替えを用意する。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料を配布する。 参考文献 『幼児体育(基礎編)』柴岡三千夫 タイケン出版 『幼児体育(応用編)』山口智之 タイケン出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・態度・協調性・発表など) 60% 筆記試験 40% ※欠席、体操服・シューズ・アクセサリなど減点対象となる</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 乳児保育 I		授業の種類 講 義		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験と子育て経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 乳児保育に関する全般的な知識と保育の内容5領域の専門知識と技能を理解し実践につながる学びをする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 3歳未満児の発育・発達の理解と、保育の場における現状と課題について理解し保育現場で必要な事柄について習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の基本的な意義を理解し、生活や遊びの実際と援助の方法を知り実践できる。 ・3歳未満児への具体的な配慮と運営体制の理解を深め、実践に向けての理解ができる。 ・多様化する(多国籍家庭や貧困家庭など)現状を理解し環境構成等ができるようになる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.乳児保育の基本的な考えを説明する。(子どもの主体性、個々の援助、体験と学びなど)【講義】 2.多様な保育について説明をする。(障害のある子、外国籍の子、家庭事情など)【講義】 3.自分の乳幼児期について振り返り乳幼児期の特徴について解説する。(自分の母子手帳を持参する)【講義】 4.乳幼児における生活・遊びの実際と援助について解説する。(1日の流れについて)【講義】 5.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(おむつ替えと着替えをする)【実技】 6.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(ミルクづくり、離乳食を食べてみる)【実技】 7.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(抱っこをする、抱っこひもを使う)【実技】 8.発育・発達を踏まえた生活・遊びについて解説する。(健康、人間関係、環境、言葉について)【講義】 9.発育・発達を踏まえた生活・遊びについて解説する。(表現、音楽、造形、保育者と子ども同士)【講義】 10.手作りおもちゃを作るための構想を考え、製作をする。(スポンジおもちゃを作る。)【実技】 11.手作りおもちゃを作る。(自由製作、発表、まとめ)【実技】 12.乳幼児における心身の健康と安全管理について説明する。【講義】 13.乳幼児における配慮と実際について説明する(集団生活、環境変化等への配慮) 【講義】 14.乳児保育における計画と実際について解説する(長期、短期計画と個別、集団的計画)【講義】 15.まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] 積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 乳児保育Ⅱアクティブラーニング対応 1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 受講態度、出欠席遅刻、提出物 20% 定期試験 80%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 乳児保育Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭として勤務し、子育て支援活動として未就園児とその保護者を対象に活動をしてきたことを踏まえ、未満児保育の子どもの様子やその保護者との関わりについてなど授業を進めていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 前年度の基礎編を踏まえ、実践編として実際の0, 1, 2歳児の生活の様子を通してそのときどきの関わり方保護者への対応の仕方について具体的に考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 課題に対しての、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、振り返りなどの方法を用いたアクティブラーニングを行い子どもや保護者一人一人に対しての対応の仕方を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個性と発達の様子をとらえる観察力や臨機応変な思考力など実践的な応用力を養い関わるができるようになる。 ・3歳未満児とその保護者との関わり方や「より良い対応」についてワークを通じて実践することができる。 ・多様化する(多国籍家庭や貧困家庭など)保育の現場の状況の中で実際の関わり方を習得し実践しようとする事ができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.実践編の登場人物について理解を深める。(ワークシートをまとめる。)【講義】 2.朝の受け入れ活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 3.朝の受け入れ活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをまとめる。)【講義】 4.食事活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 5.食事活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 6.睡眠活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 7.睡眠活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 8.排泄活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 9.排泄活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 10.着脱・清潔活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 11.着脱・清潔活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 12.遊び活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 13.遊び活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 14.午後のお迎え・お帰り活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークとロールプレイワークをまとめる。)【講義】 15.まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] 保育者になった気持ちで、子どもや保護者の対応の事例を考える。他社の意見にも耳を傾ける。積極的な発言をしていく。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 乳児保育Ⅱーアクティブラーニング対応ー 1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践			[単位認定の方法及び基準] 定期試験(80%)授業態度、出欠席(20%)		

授業概要

授業のタイトル（教科名） 子どもの健康と安全		授業の種類 演習	授業の担当者 李 英姿
授業の回数 15	時間数（単位数） 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性)			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①子ども各期における発育や発達に応じた保育の知識・技術を身につける。②子どもの病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。③保育における安全な環境を提供することができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの発育の観察と評価、日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における健康観察および養護技術を把握する。 2. 乳幼児に起こりやすい症状とケアを習得する。 3. 保育における安全管理及び応急手当を習得する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習：日常の保育における健康観察について解説する 2. 演習：発育の観察について解説する 3. 授業：生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価について解説する 4. 授業：子どもの健康増進と保健環境について説明する 5. 演習：健康的な生活習慣形成のための支援技術（1）食事、排泄について解説する 6. 演習：健康的な生活習慣形成のための支援技術（2）衣服着脱、清潔について解説する 7. 授業：子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケアについて解説する 8. 授業：子どもの疾病と適切な対応について解説する 9. 授業：事故防止および健康安全管理について解説する 10. 演習：保育の場における救急蘇生法について解説する 11. 演習：子どもにおける一次救命処置について解説する 12. 授業：起こりやすい事故と応急手当について解説する 13. 授業：予防すべき感染症について解説する 14. グループ討論：まとめ学習をする 15. 授業：復習と解説を行う 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 子どもの保健Ⅱ（株）みらい 参考資料は随時提示		[単位認定の方法及び基準] 期末試験 80% ノート 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害児保育		授業の種類 演習		授業担当者 三澤 章子	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 養護学校(知的肢体)に教員として勤務。その後障害児のダンスと音楽を学ぶ。その経験をもとに保育園や障害施設で絵本の読み聞かせやわらべうた遊びをし発達障害児への可能性を探っている。12年前より障害児(者)のダンスグループでダンスの指導をおこなっている。					
[授業の目的・ねらい] 1 障害のある子どもたちの特性を正しく理解し、援助の具体的な方法を学ぶ。 2 障害のある子どもたちを取り巻く環境・保護者への理解と支援や関係諸機関などとの連携について理解する。 3 障害のある子どもたちの遊びをダンス・わらべうたから学び実践に生かす。 [授業全体の内容の概要] 『光とともに』のドラマをもとに対応の難しい発達障害児への理解及び支援の方法、障害児を取り巻く環境、保護者への理解と支援や関係諸機関との連携などについて学ぶ。 「気になる子のためのわらべうた」から子どもの問題に合ったわらべうたを実技から学ぶ。 さまざまな障害の特性を知り、それに合った身体遊びを学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1 障害について理解し障害に応じた支援ができるようになる。 2 障害児を取り巻く環境・保護者、関係諸機関などとの連携について理解できるようになる。 3 障害児の心身をはぐくむ遊びとしてのダンス・わらべうたが実践できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション「障害児保育」について説明する。 2. 指導者自身の身体感覚を磨く。実技 3. 「子どものための簡単なダンスを作ろう」簡単なダンスの作り方を説明する。実技。 4. グループで簡単な動きをつなげてみる。実技。 5. グループで簡単なダンスを作る。実技。 6. グループ発表 7. 『光とともに』視聴及びディスカッション 8. 「①発達障害を理解する」「発達障害児を取り巻く環境を知る。」講義。 9. 『光とともに』視聴及びディスカッション 10. 「②発達障害を理解する」「保護者への理解とサポート」「関係諸機関との連携」講義。 11. 『光とともに』視聴及びディスカッション 12. 「発達障害児を取り巻く子どもや他の保護者などへの対応を考え学ぶ。」講義。 13. 『光とともに』視聴及びディスカッション 14. 『光とともに』から学ぶ「発達障害」として各自まとめをする。 15. まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] わらべうたやダンスの実技は恥ずかしがらず参加して身につけ、ボランティアなどいろいろな場面で実践してほしい。					
[使用テキスト・参考文献] 『『気になる子』へのわらべうた』クレヨンハウス			[単位認定の方法及び基準] 実技 30% 授業態度 20% 「講義・内容」のノートの提出 50% 業態度 20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害児保育		授業の種類 演 習		授業担当者 三澤 章子	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）は、前期と同じ。					
[授業の目的・ねらい]「授業全体の内容の概要」「到達目標」は、前期と同じ。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「わらべうたが子どもの心と体になぜよいか」講義 2. 「からだを育てるわらべうた・動きまわる子」講義と実技 3. 「からだを育てるわらべうた・コントロールができない子」講義と実技 4. 「からだを育てるわらべうた・アンバランスな子」講義と実技 5. 「からだを育てるわらべうた・手先が不器用な子」講義と実技 6. わらべうたの実技発表 7. 「こころを満たすわらべうた・コミュニケーションが苦手な子」講義と実技 8. 「こころを満たすわらべうた・協調性に欠ける子」講義と実技 9. 「こころを満たすわらべうた・まねるのが苦手な子」講義と実技 10. わらべうたの実技発表 11. 肢体不自由・知的障害・視覚障害・聴覚障害から一つ選び各自調査する。 12. 肢体不自由・知的障害・視覚障害・聴覚障害について学んだことを発表。 13. それぞれの障害に合ったわらべうたや身体遊びを考える。ディスカッション 14. それぞれの障害に合ったわらべうたや身体遊びを考える。ディスカッション・実技 15. 発表とまとめ 					
[履修に当たっての留意点] わらべうたやダンスの実技は恥ずかしがらず参加して身につけ、ボランティアなどいろいろな場面で実践してほしい。					
[使用テキスト・参考文献] 『『気になる子』へのわらべうた』クレヨンハウス			[単位認定の方法及び基準] 実技 50% 「講義・内容」のノートの提出 30% 授業態度 20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 社会的養護Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 大山 知恵子	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・前期		必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援学級に携わってきた。児童・生徒の中には施設から通学している子や、家庭から通学していたが途中から施設入所となる子もいた。そういった子どもたちに関わってきた経験を活かして、社会的養護の意義や現状について伝えていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、都市化は地域生活の有り様に影響を与え、女性就労の増大、核家族化や少子化は家庭生活を根本から問い直しが求められる。豊かな人間性を持った子どもを育てることが保育の特性である。総体的に社会的養護の内容を理解し、考察していく。</p>					
<p>[授業全体の内容の概要] 施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要であり、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。</p>					
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 社会的養護の意義を総体的に理解し、人間性を育て、実践に役立たせる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目オリエンテーション、社会的養護における子どもの理解と支援の基本について 2. 児童自立支援計画の作成と記録及び自己評価の意義について 3. 子どもの権利を護る仕組みについて 4. 社会的養護における保育士等の専門性について 5. 児童養護施設・乳児院・母子支生活援施の暮らしについて 6. 医療型障害児入所施設の暮らしについて 7. 児童自立支援施設・福祉型障害児入所施設の暮らしについて 8. 里親制度の特徴とその実際について 9. 保育士の業務・虐待された子どもへの支援について 10. 子どもと家庭への支援・家庭支援について 11. 相談援助の技術の活用について 12. 基本的日常生活支援について 13. 退所に向けた支援の基本について 14. 地域連携と家庭支援・地域住民と施設の関係について 15. 社会的養護の課題と将来像について まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] 提示された課題は、次の授業までに調べる。疑問に思ったことは調べたり質問したりして、しっかりと理解する。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 『児童の福祉を支える 演習社会的養護Ⅱ』萌文書林 編著者 吉田眞理 著者 高橋一弘 村田紋子			[単位認定の方法及び基準] 試験 50% ・ 提出物 50%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子育て支援		授業の種類 演 習		授業担当者 金沢・保育学科教員																															
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必 修																																
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼稚園、保育園で幼稚園教諭、保育士としての経験を有している。子育て支援に必要な知識と援助技術を習得できるよう授業を行う。</p>																																			
<p>[授業の目的・ねらい] 子育て家庭への支援に関して理解を深め、支援の方法など総合的な力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育士の行う子育て支援について、さまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①さまざまな支援の内容と必要性、あり方について理解する。 ②保育の専門性を活かした子育て支援の方法を習得する。</p>																																			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 35%;">1.オリエンテーション</td> <td>・授業概要説明、子育て支援とはについて学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>2.子育て支援の意義</td> <td>・子育て支援において保育園などが果たす役割などを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>3.子育て支援の基本的価値</td> <td>・子どもの成長への気づき、保護者の状況に配慮した支援を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>4.子育て支援の基本的姿勢</td> <td>・家庭や地域との連携、保護者との相互理解を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>5.子育て支援の基本的技術</td> <td>・子育て支援に役立つコミュニケーション技法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>6.園内、園外との連携と社会資源</td> <td>・職員間の連携、さまざまな子育て支援者との連携を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>7.記録、評価、研修</td> <td>・さまざまな記録方法、評価、研修を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>8.日常会話を活用した子育て支援</td> <td>・送迎時、トラブルなどのやりとりを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>9.文章を活用した子育て支援</td> <td>・連絡帳、おたよりなどの活用方法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>10.行事などを活用した子育て支援</td> <td>・保育参観、懇談会、行事などを活用した子育て支援を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>11.環境を活用した子育て支援</td> <td>・環境をとおした子育て支援の方法などを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>12.地域子育て支援拠点における支援</td> <td>・保育園などで多い地域子育て支援サービスなどを学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>13.入所施設における子育て支援</td> <td>・入所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>14.通所施設における子育て支援</td> <td>・通所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】</td> </tr> <tr> <td>15.まとめ</td> <td>・子育て支援についての振り返りと今後の課題について。【演習】</td> </tr> </table>						1.オリエンテーション	・授業概要説明、子育て支援とはについて学ぶ。【演習】	2.子育て支援の意義	・子育て支援において保育園などが果たす役割などを学ぶ。【演習】	3.子育て支援の基本的価値	・子どもの成長への気づき、保護者の状況に配慮した支援を学ぶ。【演習】	4.子育て支援の基本的姿勢	・家庭や地域との連携、保護者との相互理解を学ぶ。【演習】	5.子育て支援の基本的技術	・子育て支援に役立つコミュニケーション技法を学ぶ。【演習】	6.園内、園外との連携と社会資源	・職員間の連携、さまざまな子育て支援者との連携を学ぶ。【演習】	7.記録、評価、研修	・さまざまな記録方法、評価、研修を学ぶ。【演習】	8.日常会話を活用した子育て支援	・送迎時、トラブルなどのやりとりを学ぶ。【演習】	9.文章を活用した子育て支援	・連絡帳、おたよりなどの活用方法を学ぶ。【演習】	10.行事などを活用した子育て支援	・保育参観、懇談会、行事などを活用した子育て支援を学ぶ。【演習】	11.環境を活用した子育て支援	・環境をとおした子育て支援の方法などを学ぶ。【演習】	12.地域子育て支援拠点における支援	・保育園などで多い地域子育て支援サービスなどを学ぶ。【演習】	13.入所施設における子育て支援	・入所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】	14.通所施設における子育て支援	・通所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】	15.まとめ	・子育て支援についての振り返りと今後の課題について。【演習】
1.オリエンテーション	・授業概要説明、子育て支援とはについて学ぶ。【演習】																																		
2.子育て支援の意義	・子育て支援において保育園などが果たす役割などを学ぶ。【演習】																																		
3.子育て支援の基本的価値	・子どもの成長への気づき、保護者の状況に配慮した支援を学ぶ。【演習】																																		
4.子育て支援の基本的姿勢	・家庭や地域との連携、保護者との相互理解を学ぶ。【演習】																																		
5.子育て支援の基本的技術	・子育て支援に役立つコミュニケーション技法を学ぶ。【演習】																																		
6.園内、園外との連携と社会資源	・職員間の連携、さまざまな子育て支援者との連携を学ぶ。【演習】																																		
7.記録、評価、研修	・さまざまな記録方法、評価、研修を学ぶ。【演習】																																		
8.日常会話を活用した子育て支援	・送迎時、トラブルなどのやりとりを学ぶ。【演習】																																		
9.文章を活用した子育て支援	・連絡帳、おたよりなどの活用方法を学ぶ。【演習】																																		
10.行事などを活用した子育て支援	・保育参観、懇談会、行事などを活用した子育て支援を学ぶ。【演習】																																		
11.環境を活用した子育て支援	・環境をとおした子育て支援の方法などを学ぶ。【演習】																																		
12.地域子育て支援拠点における支援	・保育園などで多い地域子育て支援サービスなどを学ぶ。【演習】																																		
13.入所施設における子育て支援	・入所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】																																		
14.通所施設における子育て支援	・通所施設を利用する保護者の傾向と支援方法を学ぶ。【演習】																																		
15.まとめ	・子育て支援についての振り返りと今後の課題について。【演習】																																		
<p>[履修に当たっての留意点] 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら学習する。</p>																																			
<p>[使用テキスト・参考文献] 『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』二宮裕子 萌文書林 参考文献 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・態度・グループワーク・協調・発表など)40% 科目試験 60%</p>																																

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 児童文化	授業の種類 演 習	授業担当者 福祉保育学科教員	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 選 択
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>幼稚園での保育者・園長としての経験を活かし、人間形成上一番大切な時期を過ごすため、幼児期に子どもが製作素材を自主的に‘今‘どうありたいの、またどうしたらできるのか、試行錯誤し、自らの言葉で人に伝えられるような保育を望んでいる。児童文化を通し身近な素材を活かし作る楽しさを精神力、能力、体力を生かし前向きな人間とし進めるような時間を共にありたい。</p>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指す者として、こどもの接し方・見方・考え方等、ためにどのように配慮するのか。 ・豊かな人間性、感性を磨き、積極的に学び向上する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化面から保育に関する知識や技術を修得するため、グループ、保育実践を通し、質の向上を目指す。 <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての使命感、責任感、人間性を磨く気持ちをもつ。 ・教材研究で修得した技能を保育の様々な分野で主体的に実践できる保育技術を高める。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童文化とは・・・こどもの関わる遊び・変化していく社会と児童文化 2. 美術感覚一色・形の組み合わせ等考え工夫して感性を豊かに 3. 個人・グループ活動を通し、いろいろな見方・考え方を引き出す 4. ディスカッション、意見、考え方を自分のことばで伝える 講師は学生の活動をサポートし導く 5. 実践 子どもとふれあう 学生はグループ活動 幼児と交流 6. 実践の反省評価・・・グループごとに話し合う・まとめ・発表しあう 7. 手作り絵本・・・名作童話に秘められている”心育て” 講義 プリント 絵本が好きになる条件 シナリオ作りの準備を始める 教材をどのように活かすか こどもが好きな絵本 こどもに必要とする絵本 色彩の美しいものを提供 グループ活動 8. 絵本づくり・・・物語の筋書きを考え文書に絵を合わせる 9. 積み木を使って・・・わくわく積み木・トントン積み木 積み並べる道 車 10. 手作り絵本発表・・・ 個人作品発表 反省 評価 11. ボルカホン制作・・・ DVD をみる 楽器(太鼓)をつくる 制作後歌、リズムに合わせて合奏 楽 器 *リーダーを決め、子どもと遊ぶときボルカホン演奏ができるよう舞台に用意 演奏後子どもにどのようなものか(たたく。触る) 子どもとの合奏 12. 実践 子どもとふれあう グループ活動 想定、気づきに留意し幼児と交流 ボルカホン演奏 道具を使いダイナミックに遊びを展開 13. 実践の反省評価・・・グループごとに事後の話し合いのまとめをする 発表をし合う・気づき、想定はどうであったか(社会生、人間性、知識、技術) 14. まとめと解説・・・教材研究を通し児童文化に関する様々な分野の技術は高められたか？意見交換 15. 保育者になるために・・・ 児童文化を通し保育者としてどのような人間性と質の向上を目指すか 			
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>交流を通じて、何に気づき、子どもから何を学んだのかを常に振り返り自分のものにしてほしい。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		レポート 40%	提出物 40%
		授業態度 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術 I		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤・橋本・福祉保育学科教員	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験を活かし、現場で実践できる保育技術の習得を目指し、演習を通して学生の保育技術向上を図る。年度末の学習成果発表会にむけて、クラス全体で学んだことを活かし、その集大成としての発表へと導く。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育者を目指す者として、保育の現場で活かせる技術の習得し、実践的な演習体験や講義を通じ保育者に必要とされる力を養うことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・保育の現場で活かせる保育技術の習得と向上を目指し、活動の流れに反映できるようになる。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・実習に向けて、また保育者となった時に自信をもって実践できるよう、各分野の演習から自らの保育の引き出しを増やしていく。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 後期の授業の流れについて(総合演習 I と保育実習指導 I は授業内容を共有し、実践力を高めていく。) コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習事前学習(保育所)の振り返りと情報共有 2. 表現技術演習① 3. 表現技術演習② 4. 表現技術演習発表 5. パネルシアター制作① <実技> 6. パネルシアター制作③ // 7. 施設実習に向けて…施設の1日 / 「たんぼぼ学園」見学実習に向けて<講義→ワーク> 8. 「たんぼぼ学園」見学実習を終えて<ワーク→解説> 9. パネルシアター発表② 10. 保育技術発表会に参加する(先輩の発表から保育技術を学ぶ) 11. 集団遊び<実技> 12. 実習で活かせる保育技術①<実技> 13. 実習で活かせる保育技術②<実技> 14. 実習で活かせる保育技術③<発表> 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。積極的に授業参加し技術を深める。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] ・パーフェクトガイド3冊・・・幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(解説書を含む) ・保育福祉小六法2020年度版(みらい)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 発表の結果 40%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 白石 啓子・霜田 道代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験を活かし、現場で実践できる保育技術の習得を目指し、演習を通して学生の保育技術向上を図る。年度末の学習成果発表会にむけて個々に、そしてグループ、クラス全体で保育技術の引き出しを増やし、その集大成としての発表へと導く。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育現場で必要とされる保育技術を身につけ、保育の様々な場面で活用できるようになる。 ・保育技術の向上を図るため、児童文化に関する知識を深め、それらを効果的に取り入れた保育の流れについて理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・手遊び、歌あそび、読み聞かせ、エプロンシアター、手ぶくろシアター、パネルシアター、ペープサート、人形劇、各種製作など、保育技術に関する知識を深めながら、製作や演習を通し実践につなげる。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育のスキルアップを図り、実習時や保育の現場において保育の流れの中で効果的な実践ができるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(授業概要等、授業の流れを知る。) <説明→ワーク> 2. 保育技術とは・・・を学ぶ <講義→ワーク> 3. 保育技術を学ぶ①(壁面制作①) <講義→ワーク> 4. 保育技術を学ぶ②(壁面制作②) <講義→ワーク> 5. 園行事のある日の保育の流れを知る(誕生会・英語教室など) <講義→ワーク> 6. 手作り教材について <講義→ワーク> 7. 参加実習(英語教室①グループ) * 該当グループ以外は紙芝居の作成<個別ワーク> 8. 参加実習(英語教室②グループ) // 9. 参加実習(英語教室③グループ) // 10. 保育技術を学ぶ③(紙芝居①) <個別ワーク> 11. 保育技術を学ぶ④(紙芝居②) <個別ワーク・仕上げ> 12. 保育技術の発表(手作り紙芝居の実演) <発表→共有→まとめ> 13. 保育技術を学ぶ⑤(手ぶくろシアター①) <個別ワーク> 14. 保育技術を学ぶ⑥(手ぶくろシアター②) <個別ワーク・仕上げ> 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2019</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術Ⅱ	授業の種類 演 習	授業担当者 白石 啓子・霜田 道代
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・後期
必修・選択 必 修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験を活かし、現場で実践できる保育技術の習得を目指し、演習を通して学生の保育技術向上を図る。年度末の学習成果発表会にむけて個々に、そしてグループ、クラス全体で保育技術の引き出しを増やし、その集大成としての発表へと導く。</p>		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で必要とされる保育技術を身につけ、保育の様々な場面で活用できるようになる。 ・保育技術の向上を図るため、児童文化に関する知識を深め、それらを効果的に取り入れた保育の流れについて理解を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、歌あそび、読み聞かせ、エプロンシアター、手ぶくろシアター、パネルシアター、ペープサート、人形劇、各種製作など、保育技術に関する知識を深めながら、製作や演習を通し実践につなげる。 <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育のスキルアップを図り、実習時や保育の現場において保育の流れの中で効果的な実践ができるようになる。 ・個々の保育技術を発揮しながら、グループやクラス全体での実践発表を充実したものとする。 		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉施設見学実習<講義→実習> 2. " 3. 手作り手ぶくろシアターの発表 <発表→共有→まとめ> 4. 学習成果発表会(保育実践発表)に向けて① <講義→クラスワーク> 5. " ② グループ練習とオペレッタの準備<グループ・クラスワーク> 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">グループ発表及び、クラス全体で行うオペレッタについては、テーマの選択や企画、演出、実践へと協力し合って取り組めるようにする。 <グループ・クラスワーク></p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 12. グループ発表会 <発表→共有→まとめ> 13. グループ発表の振り返りと調整 <グループワーク> 14. オペレッタの仕上げ <クラスワーク> 15. まとめ 		
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。 		
<p>[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2019</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導 I		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤・橋本・福祉保育学科教員	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期		必修・選択 必 修
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育所・児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能について理解する。 ・保育士の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 ・保育計画、観察、記録及び自己評価等保育実習に向けて必要な知識や技術を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・保育の倫理と実践的な学習を積み重ねながら、円滑にまた充実した実習となるよう学びを深めていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習 I の意義や目的、内容や方法、心得を学び、地震の課題をもって実習に臨む。 ・保育の流れを理解し、保育の現場で役立つ保育技術について学び、習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 授業内容説明・実習までの流れ/保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設について(保育士の倫理) < 講義 > 2. 保育実習 I < 保育所実習 > < 施設実習 > に向けて < 講義 → ワーク > 3. 戸外実践演習 < 散歩 > ①…戸外活動を安全に楽しむために(活動のねらいと危機管理) → 隣の公園へ 4. グループワーク【調べ学習】①公園までの散歩をもっと楽しむために 5. 保育の計画 < 散歩・活動の流れ > < 講義 → ワーク > 6. 「時計を作ろう」①…ねらい・内容 < 時計を作るために必要な箱、教材を持参すること > < 講義 → 実技 > 7. 参加実習 < 園児との「時計作り」① > 8. 参加実習 < 園児との「時計作り」② > 9. 地域との連携について(前橋七夕まつり・子ども広場での遊びの提供に向けて・準備)① < 実技 > 10. " (前橋七夕まつり・子ども広場準備) ④ < 講義 → 実技 > 11. 見学実習 < 7月の誕生会(鈴蘭幼稚園) > 12. ペープサートを作ってみよう! ③ < 実技 > 13. 保育のスキル発表(手遊び → ペープサート) 14. 実習事前学習について①…実習先調べ(保育所・施設) < 講義 → ワーク > 15. 実習事前学習について②…事前オリエンテーションに向けて < 講義 → ワーク > まとめ ※実習事前学習のための事前オリエンテーション調整依頼の電話かけの実施。(夏休み前にオリ日程を担任に報告する事)</p>				
<p>[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。授業は、積極的に参加する。</p>				
[使用テキスト・参考文献] ・パーフェクトガイド(3冊)・保育福祉小六法2019年度版(みらい) ・保育所保育指針(解説書を含む) ・幼稚園教育要領(解説書を含む) ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(解説書を含む)		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 試験の結果 40%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導 I		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤・橋本・福祉保育学科教員	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)</p> <p>幼稚園・保育園・認定こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にする。 ・保育の計画、観察を、記録および自己評価等保育実習に向けて必要な知識や技術を学び、実践の場で生かしていく。 ・実習施設における子ども(利用者)の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・実習の事後指導を通じて、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、円滑にまた充実した実習となるよう学びを深めていく。 <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I の意義や目的、内容や方法、心得を学び、自身の課題を持って実習に臨めるようになる。 ・実習終了後には実習総括・評価から新たな自己の課題を明確にし、解決に向けて努力できるようになる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 総合演習 I と内容を共有して授業を進め、理解を深めていく コマ数実習先オリエンテーションについて(依頼・実施・報告・調整等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期の授業の流れについて / 実習事前学習(施設)の振り返りと情報共有<講義→発表> 2. 保育実習 I (保育所)の概要と実習日誌について / 実習関係書類の作成<講義→ワーク> 3. 保育実習 I (施設) の概要と実習日誌について / 実習関係書類の作成<講義→ワーク> 4. パネルシアター制作②<実技> 5. パネルシアター発表①<実技> 6. 指導案作成の流れ…パネルシアターの実践に向けて<講義→ワーク> 7. 保育技術発表会に参加して<ワーク→解説> 8. 実習前オリエンテーションに向けて<講義→ワーク> 9. 実習前オリエンテーションを終えて<ワーク→解説> 10. 園児とのかかわり(鈴蘭幼稚園での朝の自由遊びに参加して)<実習> / 実習日誌作り 11. 施設実習に向けて / 実習課題の明確化・実習に際しての留意事項や最終確認等<講義→ワーク> 12. 施設実習事後指導と自己課題の明確化(実習先へのお礼状について/実習総括と自己評価<ワーク→解説> 13. 保育実習について①<講義→グループワーク> 14. 保育実習について②<講義→グループワーク> 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。授業は、積極的に参加する。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>*前期と同じ</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業態度 20% 提出物 40%</p> <p>試験の結果 40%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 白石 啓子・霜田 道代
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 選択必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・保育園・こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導案の立案、作成など責任実習を視野に入れた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。</p>				
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰをはじめ、既習科目全体の知識・技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅱの目的を理解し、保育計画の学びを踏まえた指導案を計画し、保育の場で実践する。 ・自らが立てた指導案を実践する上では、想定できる保育の流れや展開について綿密に検討し、準備を整えて実習に向かう。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習指導Ⅱの授業概要について(幼稚園教育実習・保育実習Ⅱの目的や内容) <講義→ワーク> 2. 保育実習Ⅰの振り返り(日誌の記録から) <講義→グループワーク> 3. 参加実習(附属認定こども園)の流れについて <講義→ワーク> 4. 参加実習(附属認定こども園にて・Aグループ)(Bグループはグループワーク) 5. 参加実習(附属認定こども園にて・Bグループ)(Aグループはグループワーク) 6. 参加実習の振り返り <ワーク→発表→まとめ> 7. グループワーク(A・Bグループ)のまとめ 8. 参加実習(附属認定こども園にて誕生会への参加) <実習→ワーク→まとめ> 9. 園の1日の流れを理解する <講義→ワーク> 10. 指導案①(指導案の立て方・・・1日実習編) <講義→ワーク> 11. 指導案②(指導案の作成) <個別ワーク> 12. 指導案③(指導案の作成) < " > 13. 指導案④(共有→振り返り) <グループワーク→講義> 14. 実習先との事前オリエンテーションに向けて <講義→ワーク> 15. まとめ 				
<p>[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2020</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 白石 啓子・霜田 道代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・後期	必修・選択 選択必修		
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・保育園・こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導案の立案、作成など責任実習を視野に入れた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰをはじめ、既習科目全体の知識・技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅱの目的を理解し、保育計画の学びを踏まえた指導案を計画し、保育の場で実践する。 ・自らが立てた指導案を実践する上では、想定できる保育の流れや展開について綿密に検討し、準備を整えて実習に向かい、子どもたちとの関わりから課題を見出す。 ・実習の振り返りから自己の新たな課題を明確にし、改善方法を見出しながら今後の実践につなげていく。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.実習までの流れを理解する<講義→ワーク> 2.実践スキル演習①<講義→ワーク> 3.実践スキル演習②<解説→個別ワーク> 4.実践スキル演習③<個別ワーク→仕上げ> 5.実践スキル演習④<発表→解説> 6.実習の振り返り<発表→まとめ> 7.日誌作成(保育実習Ⅱ・Ⅲ)について①<講義→個別ワーク> 8.日誌作成(保育実習Ⅱ・Ⅲ)について②<解説→個別ワーク> 9.指導案作成①<講義→個別ワーク> 10.指導案作成②<解説→個別ワーク→まとめ> 11.実習直前指導 <講義→ワーク> 12.実習事後指導(お礼状作成・自己振り返りシートの記入)<解説→ワーク> 13.保育実習Ⅱ・振り返り①<発表→共有→まとめ> 14.保育実習Ⅲ・振り返り②< // > 15.まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]パーフェクトガイド3冊わかば社 「保育所保育指針解説」厚生労働省フレーベル館(2018年) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省フレーベル館(2018年) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館(2018年) 保育福祉小六法2020</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 授業態度30%・課題への取り組み40%、提出物30%を目安とし、総合的に評価する。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演 習		授業担当者 橋本 祐	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 選択必修		
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。					
[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰをはじめ、既習科目全体の知識・技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
[授業全体の内容の概要] ・施設保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育実習指導Ⅲに関するオリエンテーションを行い、実習先の希望について確認する。 2. 保育実習Ⅰ(施設)の振り返りとまとめ。質疑応答を行う。 3. 保育実習Ⅲにおける意義の確認をする。 4. 主に児童福祉説(保育所以外)に関して、利用児・者の特徴、また実習の注意点に関する講義を行う。 5. 個別発表(全体発表)に関する説明。個別発表に向けての準備① 6. 個別発表(全体発表)に向けての準備② 書籍や論文など、必要な文献を、各自準備しておくこと。 7. 個別発表(全体発表)に向けての準備③ 8. 個別発表(全体発表)と、振り返り。 9. 子どもの観察や、記録の方法について学ぶ。 10. 実習に必要な実践スキルをグループ演習を通して学ぶ① 11. 実習に必要な実践スキルをグループ演習を通して学ぶ② 12. 個別支援計画について講義を行う① 13. 個別支援計画の作成をする② 14. 個別支援計画の作成をする③ 15. 実習先との事前オリエンテーションに向けて、まとめの講義を行う。					
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。					
[使用テキスト・参考文献] パーフェクトガイド3冊(わかば社) 保育福祉小六法2020 保育士をめざす人のための施設実習ガイド(みらい)			[単位認定の方法及び基準] 授業参加 30% 課題への取り組み 40% 提出物 30%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 橋本 祐	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・後期	必修・選択 選択必修		
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。					
[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰをはじめ、既習科目全体の知識・技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
[授業全体の内容の概要] ・施設保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 後期のオリエンテーションを行う。 2. 相談支援における共感とカウンセリングの方法について学ぶ① 3. 相談支援における共感とカウンセリングの方法について学ぶ② 4. 施設実習に臨むにあたり、目標の設定を行う① 5. 施設実習に臨むにあたり、目標の設定を行う② 6. 施設実習における記録の方法について講義を行う。 7. 日誌作成(保育実習Ⅱ・Ⅲ)について①<講義→個別ワーク> 8. 日誌作成(保育実習Ⅱ・Ⅲ)について②<解説→個別ワーク> 9. 個別支援計画の立案を行う① 10. 個別支援計画の立案を行う② 11. 実習直前の指導として、最終的な確認を行う。 12. 実習事後指導として、お礼状の作成と自己振り返りシートを記入する。 13. 保育実習Ⅱ・振り返り① 14. 保育実習Ⅲ・振り返り② 15. まとめ					
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。					
[使用テキスト・参考文献] パーフェクトガイド3冊わかば社 保育福祉小六法2020 保育士をめざす人のための施設実習ガイド(みらい)			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30% 課題への取り組み 40% 提出物 30%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者スポーツ		授業の種類 演習		授業担当者 星野 邦彦	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年 後期		必修・選択 必修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 日本障がい者スポーツ協会及び群馬県障がい者スポーツ競技会の指導者として、障がい者スポーツ大会の運営等に携わった経験をもとに、実技も含めながら授業を展開していく。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい] 障がい者が豊かな社会生活を送るために、障がい者スポーツや文化・芸術活動の果たす役割も大きい。障がい者スポーツでは、重度障がい者の参加にも考慮しつつ、生活の中で楽しむことができるスポーツ、さらには競技としてのスポーツを積極的に推進すべきであり、障がい者スポーツ振興の理解と、その援助法を中心に習得することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障がい者を取り巻く地域社会での福祉施策やスポーツ心理・レクリエーションの意義、障がい区分とスポーツ活動やスポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障がい者スポーツの実施と障がい者のために工夫されたスポーツを学習する。「初級障がい者スポーツ指導員」資格を取得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 障がい者スポーツの意義、特性、支援・援助方法を理解できる。 障がい区分に応じた基本的な支援・援助方法を身につけることができる。 障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、生活の中でスポーツに親しめるようになる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について説明する。 2. 障がい者スポーツの意義と理念について説明する。 3. コミュニケーションスキルの基礎について説明する。 4. 障がいのある人との交流について説明する。 5. 障がい者スポーツに関する諸施策について説明する。 6. 障がい者スポーツ推進の取り組み・安全管理について説明する。 7. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(シッティングバレー) 8. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(フライングディスク) 9. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(車いすスラローム) 10. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(ペタンク) 11. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(ゴールボール) 12. 各障がいの理解について説明する。 13. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫について説明する。 14. 全国障がい者スポーツ大会の概要について説明する。 15. まとめ 					
<p>[履修に当たっての留意点] 日本障がい者スポーツ協会が認定する資格なので、すべての講義を受講することが必要である。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] (公財)日本障がい者スポーツ協会 [編] 「障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)」 ぎょうせい</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度50%、実技・筆記試験50%により総合評価をおこなう。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者支援・点字		授業の種類 演 習		授業担当者 岡田 記代	
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1/2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>点字図書館に勤務し点訳奉仕者の養成講座の運営に携わりつつ、点訳奉仕会の事務局として様々な事務をおこなった。また、視覚障害者のための図書館として、点字図書の作成、貸出、点字図書の整理、目録作り等行いつつ、視覚障害者のニーズ把握やレファレンス業務をおこなったことを生かし、学生に視覚障害に対する正しい知識を得て、少しでも障害者福祉への理解力を高める一助にしたい。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点字の概要・歴史を学び視覚障害者にとって点字の持つ役割を理解する。 2. 実際に読み書きの点字技術を習得することで、視覚障害者の持つ困難や課題を確認する。 3. 点字の習得は、国語力や集中力が必要であるが、根気よく取り組むなかでこれらの力が高められる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>点字の概要・歴史の講義 点字の読み方実習 点字の分かち書き等点字文法の講義 点訳実習 視覚障害者の現況や福祉制度についての概観を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害者の現状を知り、その福祉制度について理解を深める。 2. 点字の歴史を学び、点字の発見が視覚障害者に果たした役割について理解できる。 3. 点字の読み書きを練習することで、簡単な文章の読み書きができるようになる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の現状や課題、点字の歴史について概説する・・・講義 2. 点字の仕組み(50音・清音)について解説し、読み方を指導する・・・講義と演習 3. 点字の仕組み(濁音・拗音)について解説する・・・講義と演習 4. 点字板を使って点字の書き方を練習する・・・講義と演習 5. 数字やアルファベットの書き方について解説する・・・講義と演習 6. 分かち書きについて(自立語と付属語)説明する・・・講義と演習 7. 視覚障害者の福祉制度について解説する・・・講義 8. まとめと解説 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>授業中の課題はその時間内に仕上げる。ホームワークとして出された課題はしっかり仕上げてから提出する。町の中で見つけた展示や出会う視覚障害者について、ネット等を活用して自分なりに調べてみる。視覚障害者のパラアスリート等について関心を深め、ニュースを見たり調べることを勧める。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>G-10とマナブくんの点字教室 特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会編集・発行</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>毎回、演習課題を提出してもらいその都度採点する。課題の点訳とまとめテスト行う。 提出物10% 課題点訳40% 定期試験50%</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害者支援・手話		授業の種類 演 習		授業担当者 山田浩臣・小山敏子	
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1/2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年 後期		必修・選択 必 修	
<p>実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）</p> <p>聴覚障がい者の暮らし、歴史、活動、福祉などを、当事者である聴覚障がいを持つ講師と、さまざまな場面で手話通訳経験を積んだ手話通訳士とがペアとなり、聴覚障がい者の理解を深める講義と手話実技の指導にあたります。</p>					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手話を学ぶ事を通して、聴覚障がい者と関わりを深め、聴覚障がい者の生活・歴史・福祉など社会における聴覚障がい者の現状を学び、見た目では解りにくい「障がい」を理解し社会的要因について学びます。 2. コミュニケーション手段として、基本的な手話技術を学びます。また、手話を学ぶことでコミュニケーションの必要性や伝えることの大切さを学びます。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義と手話実技</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>聴覚障がい者問題への理解、コミュニケーション手段として、手話技術を身につけます。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 ガイダンス 実技 伝え合ってみましょう 2. 講義 聴覚障害者のコミュニケーション 実技 家族を紹介しましょう 3. 講義 聴覚障害者の暮らし 実技 数について話しましょう 4. 講義 音のない世界 実技 住所・趣味を紹介しましょう 5. 講義 手話の歴史 実技 時を表しましょう 6. 交流会 交流会「ろう者と手話で話してみよう」 ろう者体験談を聞く(ろう者の生活や育児の体験) 7. 講義 手話は言語 実技 子ども園で保護者と話しましょう 8. 振り返り 					
<p>[履修に当たっての留意点]</p> <p>普段の生活の中で、「もし、聞こえなかったらどうなるだろう?」、そして、「どうするだろう?」と考えてみてみましょう。 「伝え合いたい」という気持ちを元に、視覚言語である手話を学びましょう。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>聴さんと学ぼう! : 一般社団法人全日本ろうあ連盟 手話を学ぼう 手話で話そう: 全国手話研修センター 私たちの手話 学習辞典 I : 一般社団法人全日本ろうあ連盟 聴覚・言語障害者とコミュニケーション: 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>手話での読み取り(50%) 手話での表現(スピーチ)(50%)</p>		